

秀乃世蕃考

四二

79
585
2.



門 7 9  
院 585  
卷 2



香道秘傳書校正卷下

大枝源芳校正

岷翁齋香爐之圖

香爐事法清野志野入道相傳之旨  
 存心以才記在公定之矣念其  
 公間於清不富於承也  
 多人習先大能之  
 元龜甲子  
 岷翁齋宗入

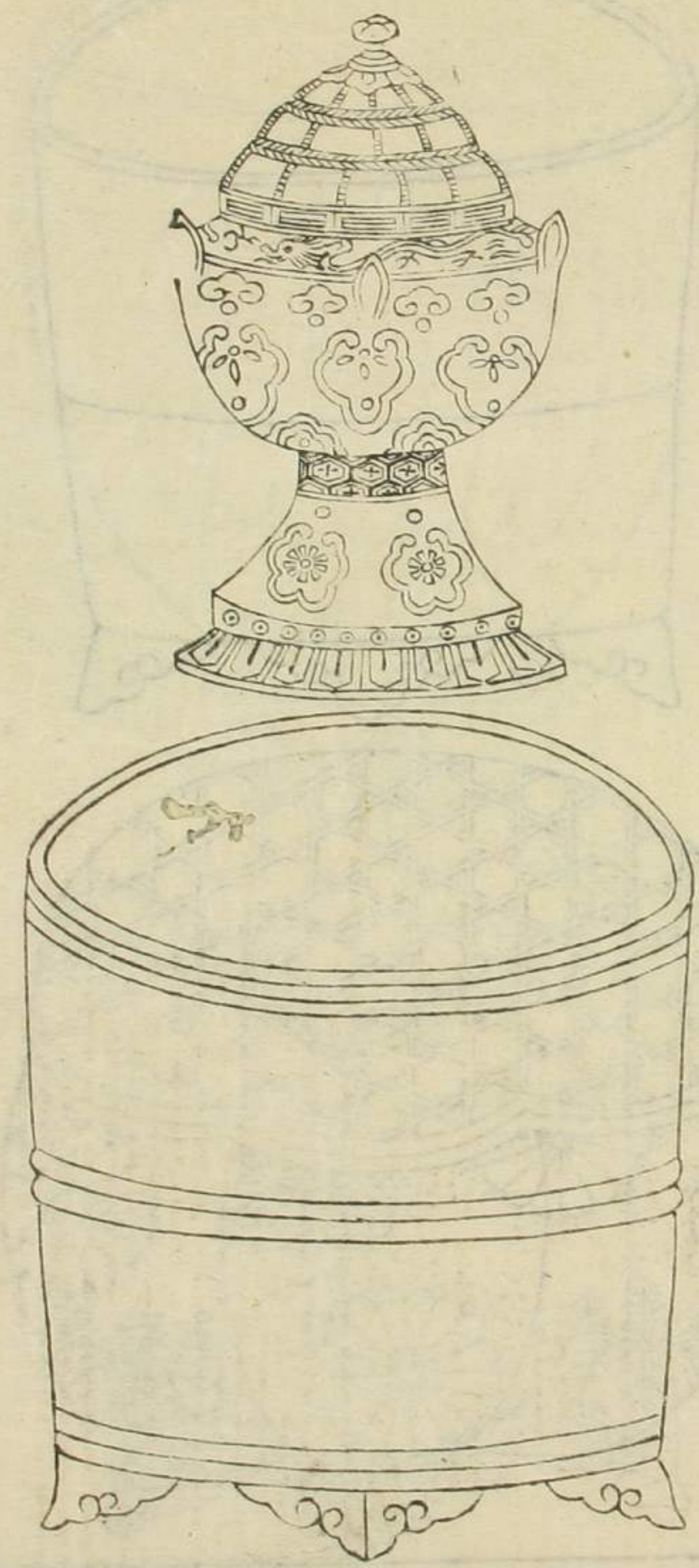
香道秘傳書卷下

二重香爐 灰皿合



神前垂物之沈と造りけし

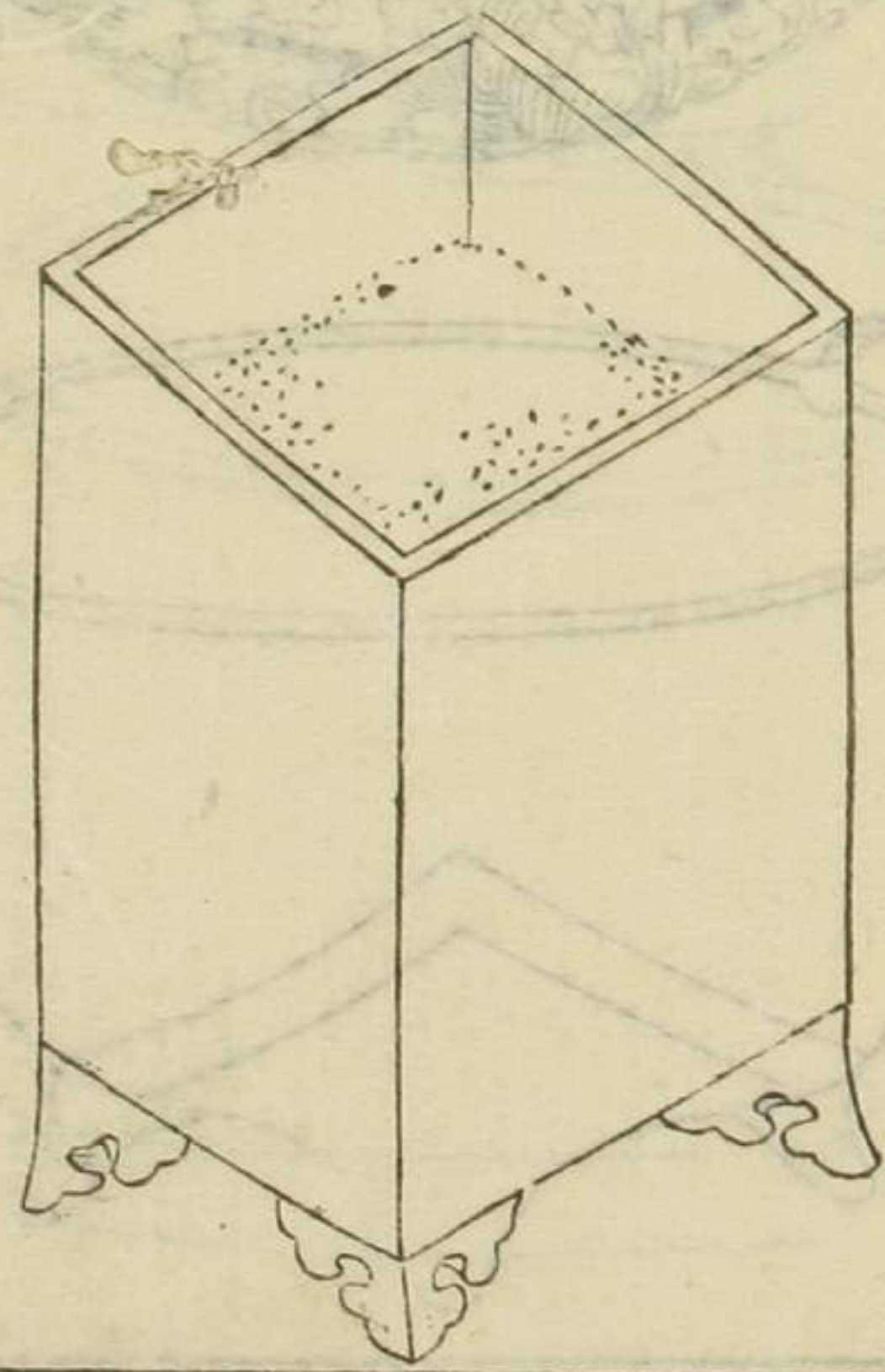
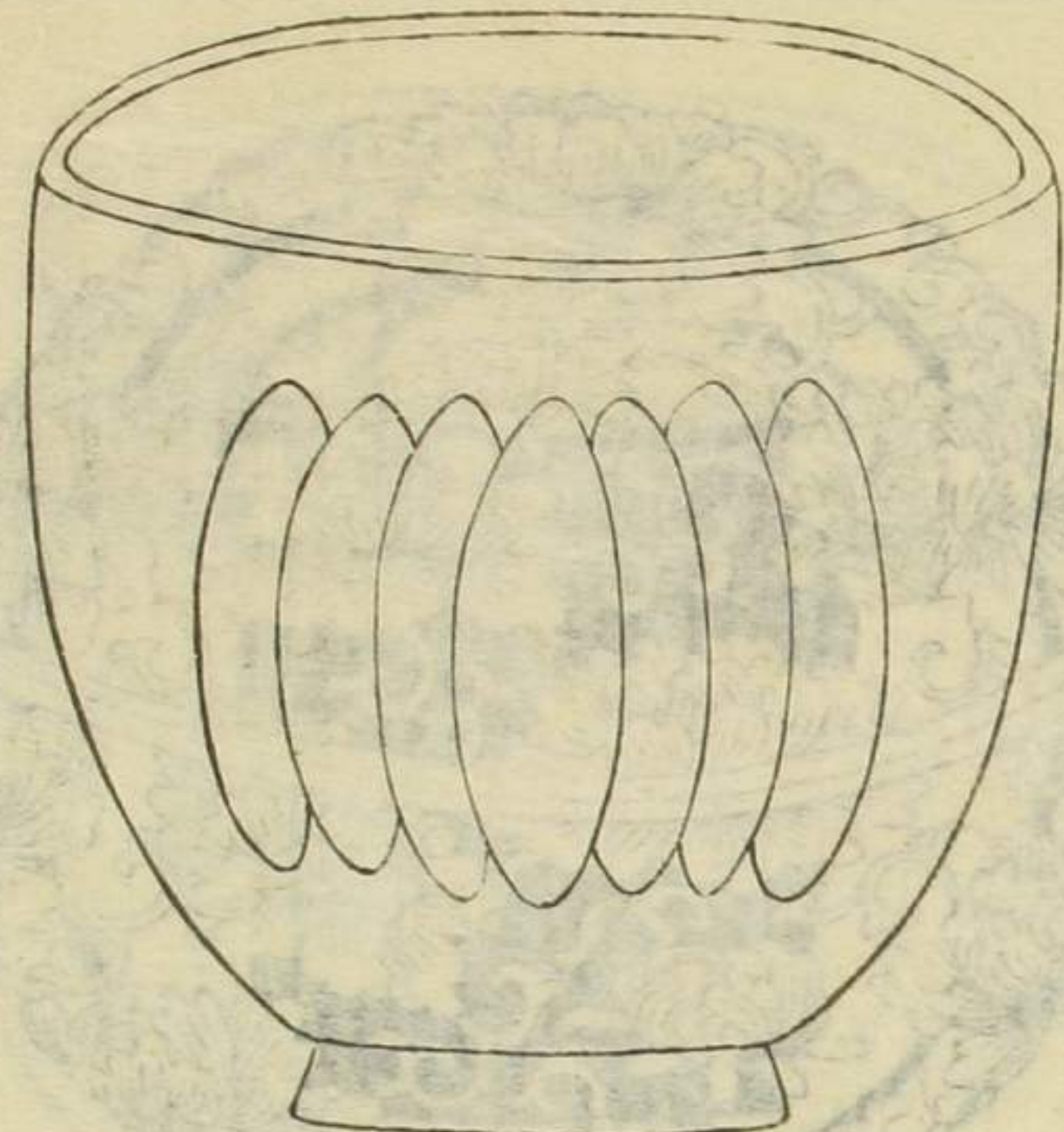
如や香爐 灰五合  
日月と相しる時香と焼物あり



開香爐 灰五合

香道必事文三

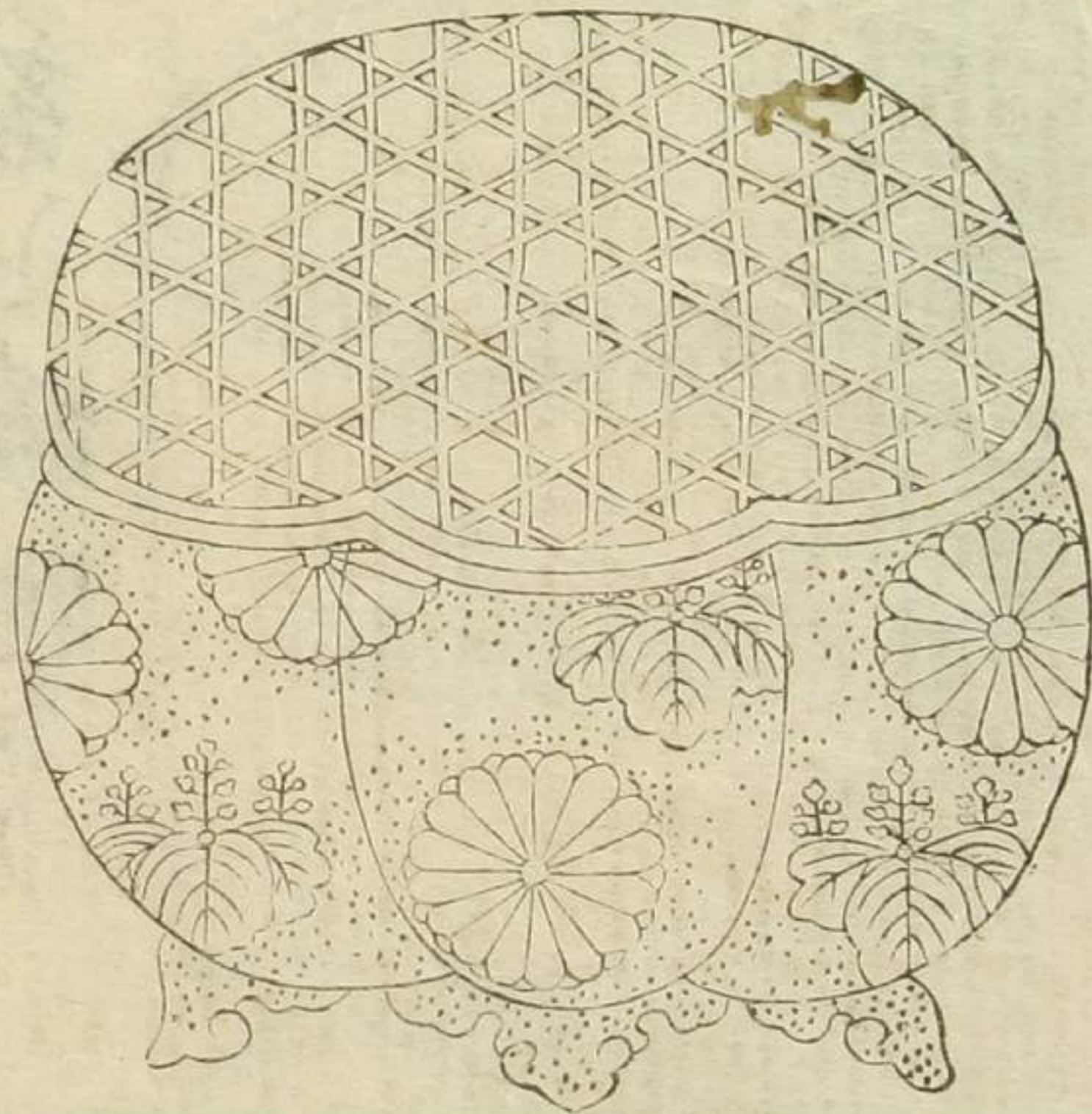
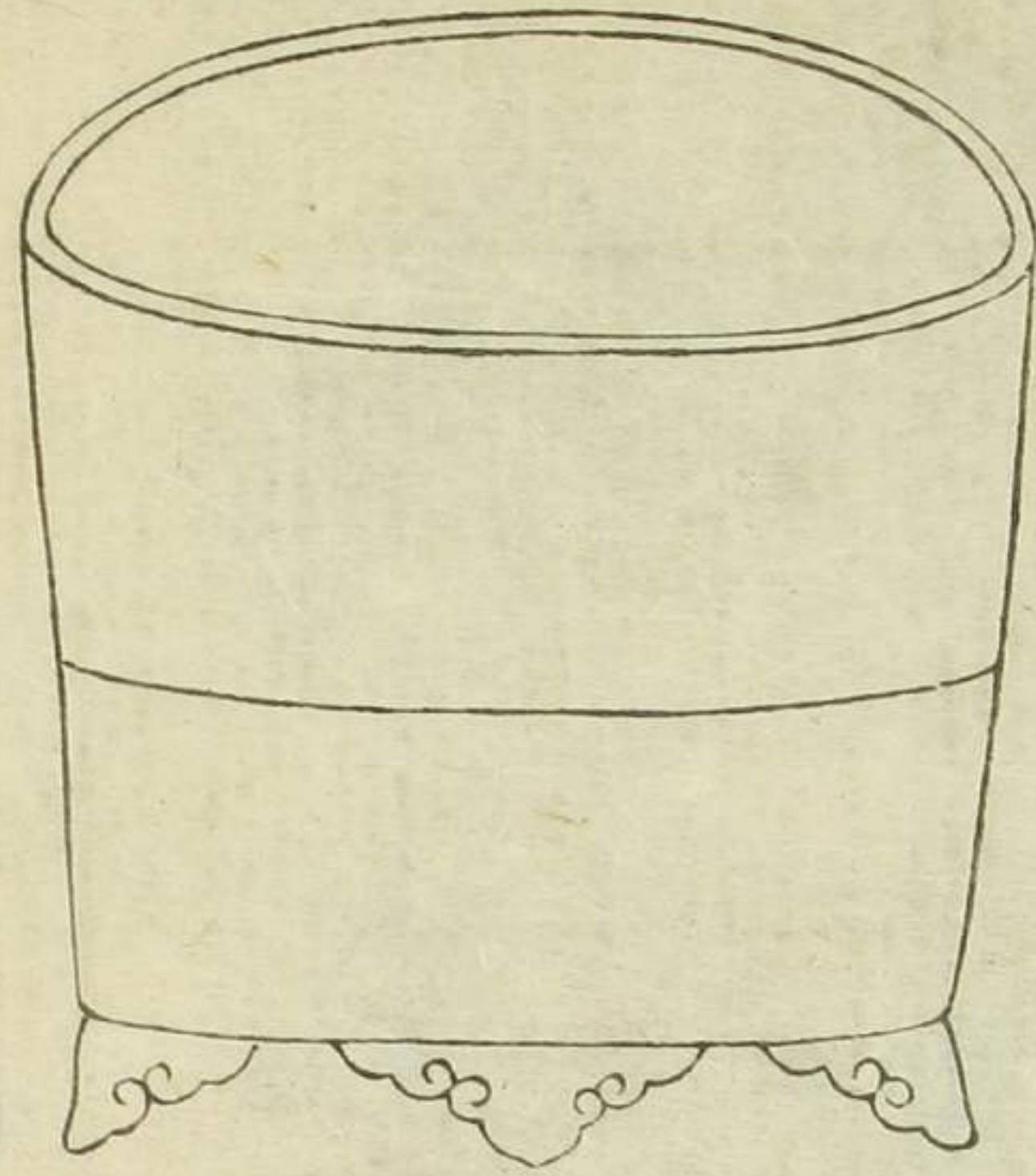
四方香爐灰皿合



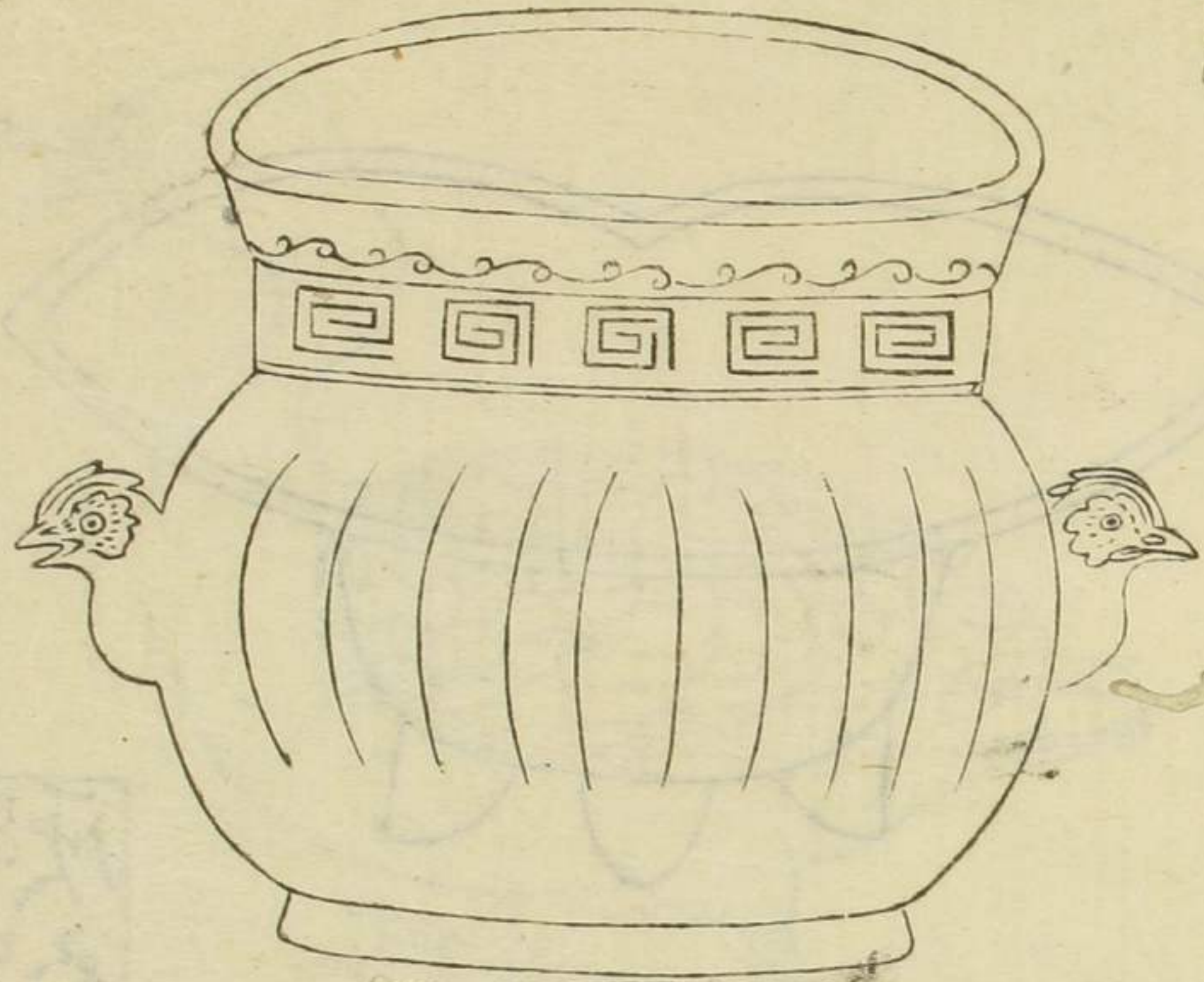
志不辱灰皿合

志不辱灰皿合

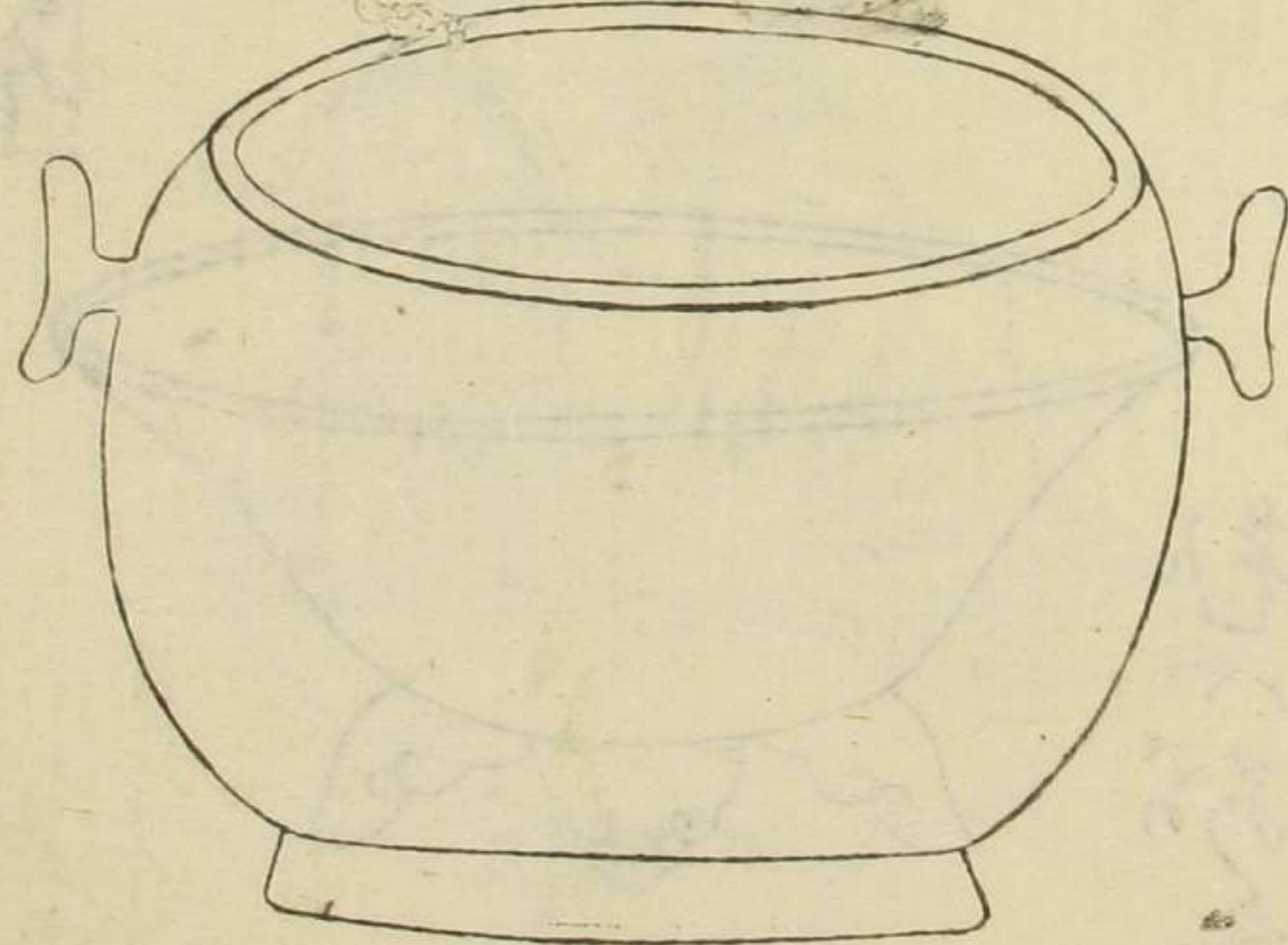
火とり香爐灰皿合



桶かき香爐灰皿合

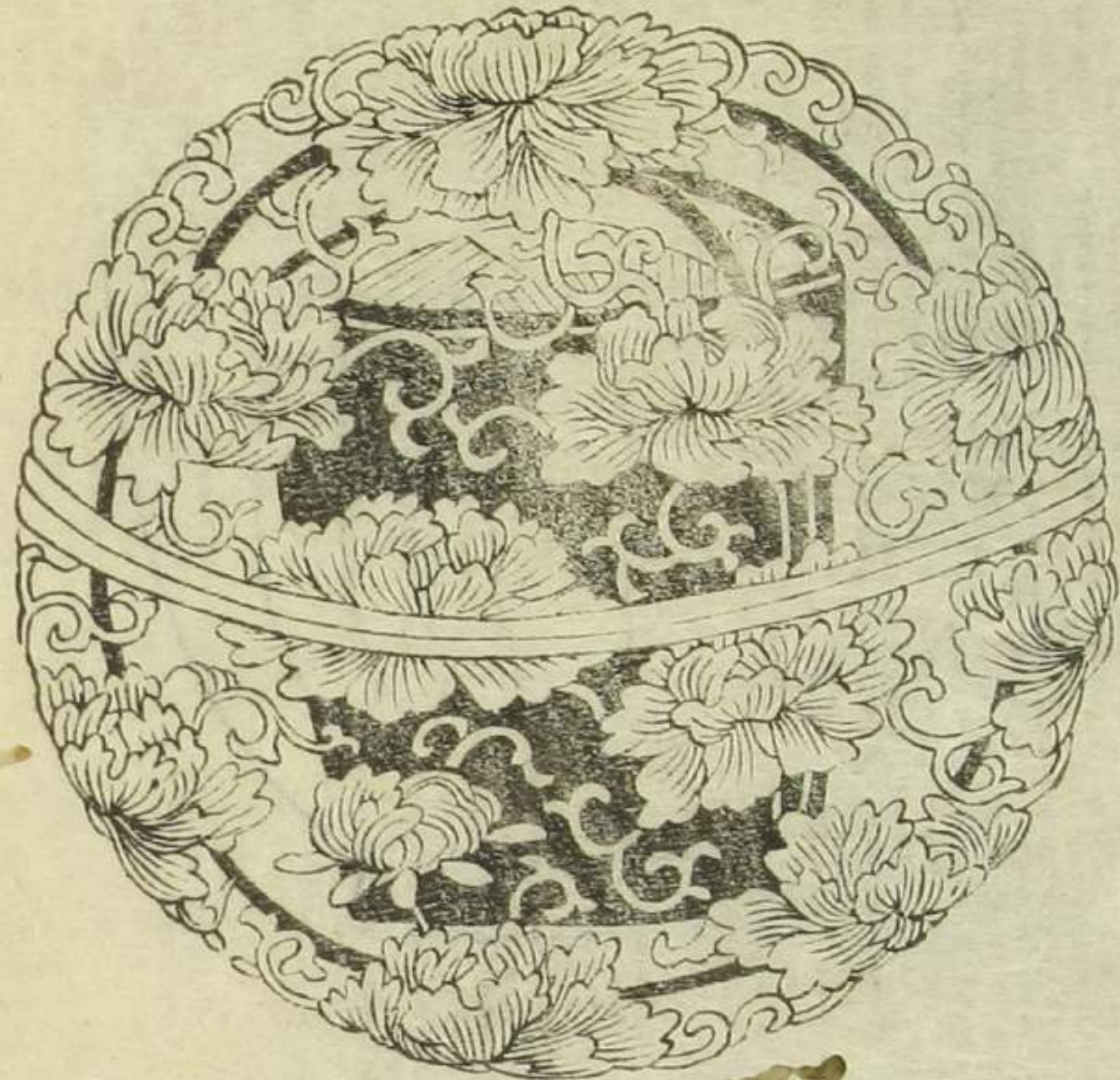


その香爐所六合

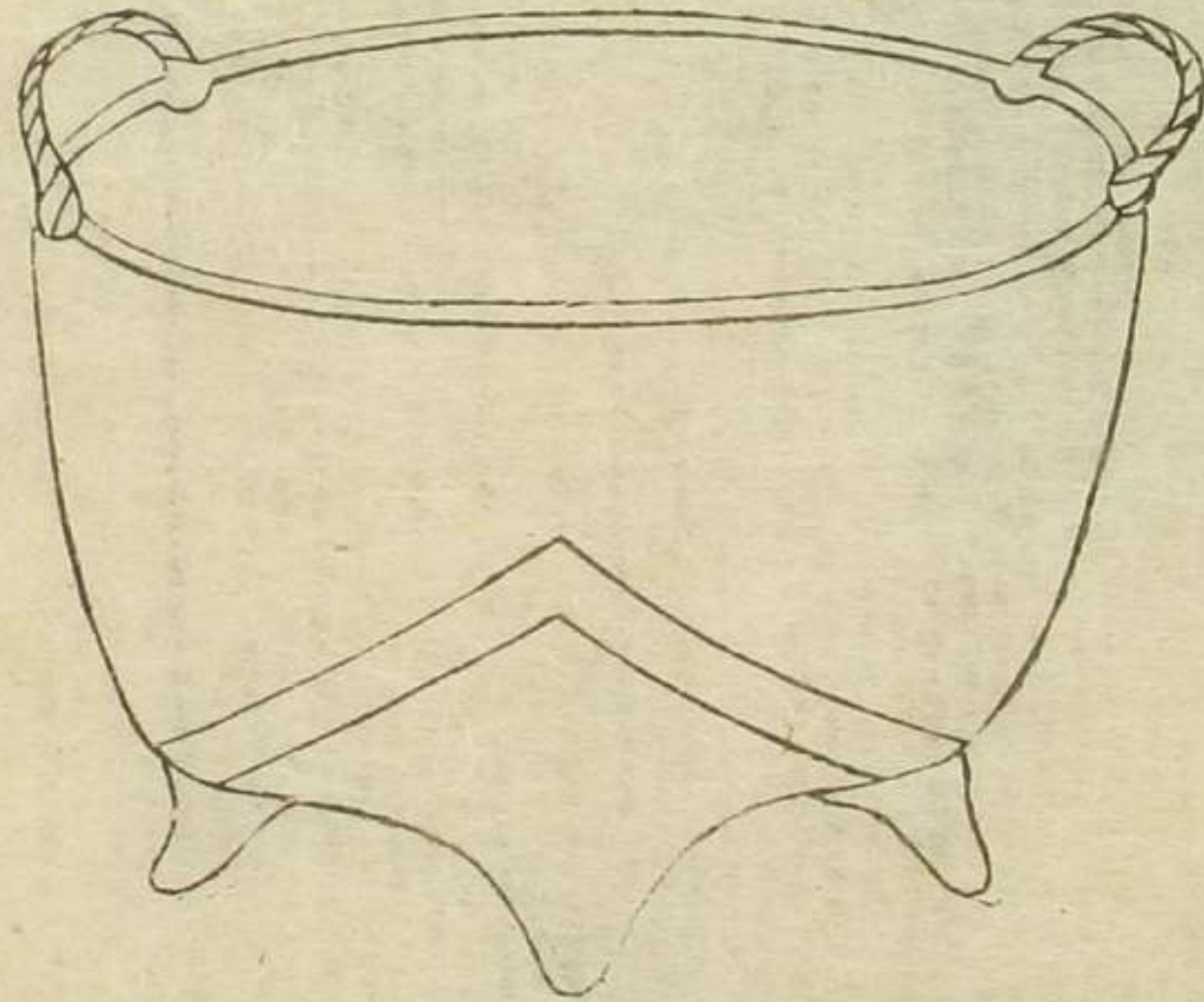


その香爐所六合

その香爐所六合



袴香爐所六合



香道必傳文三下

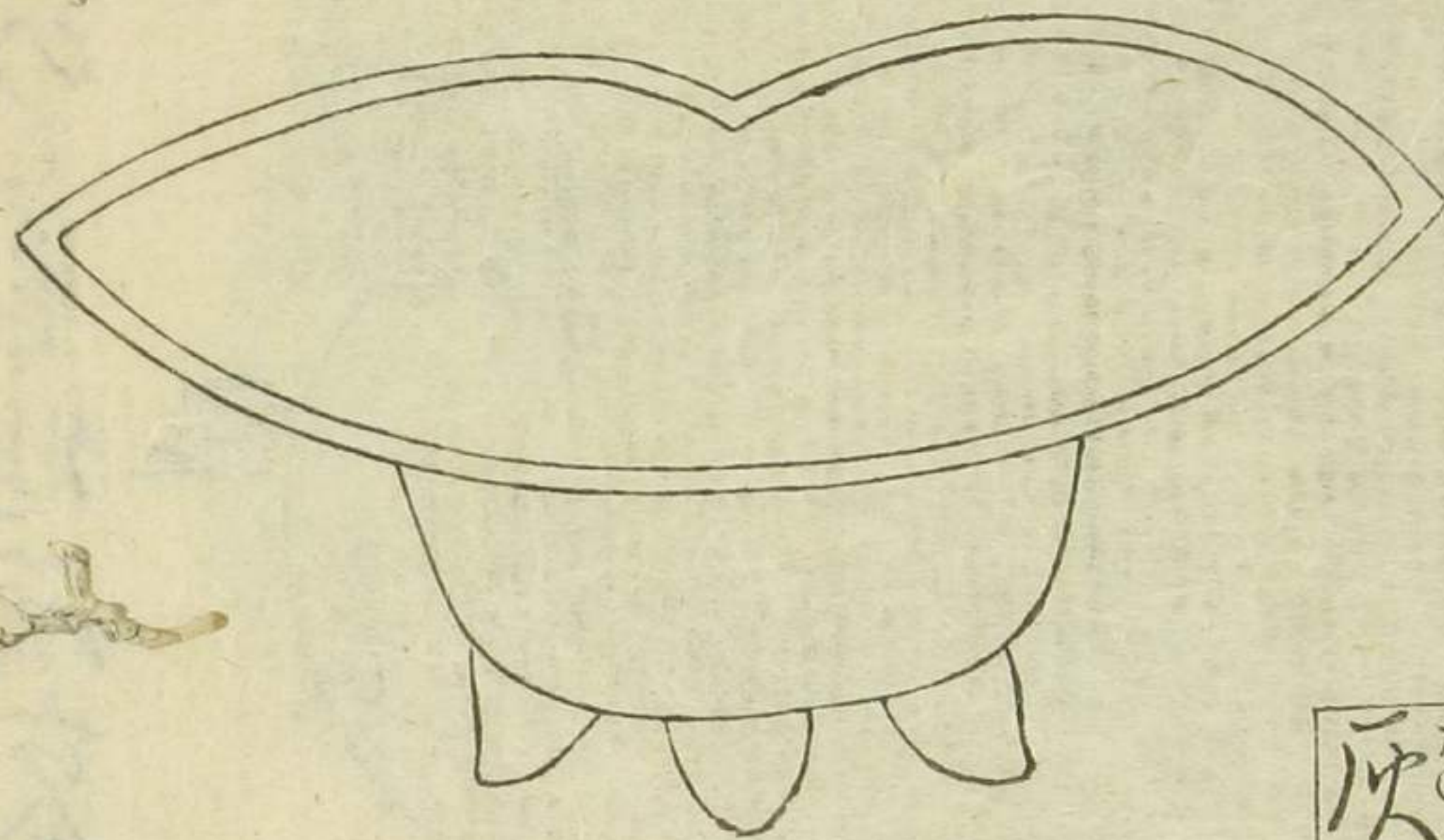
香爐灰六合



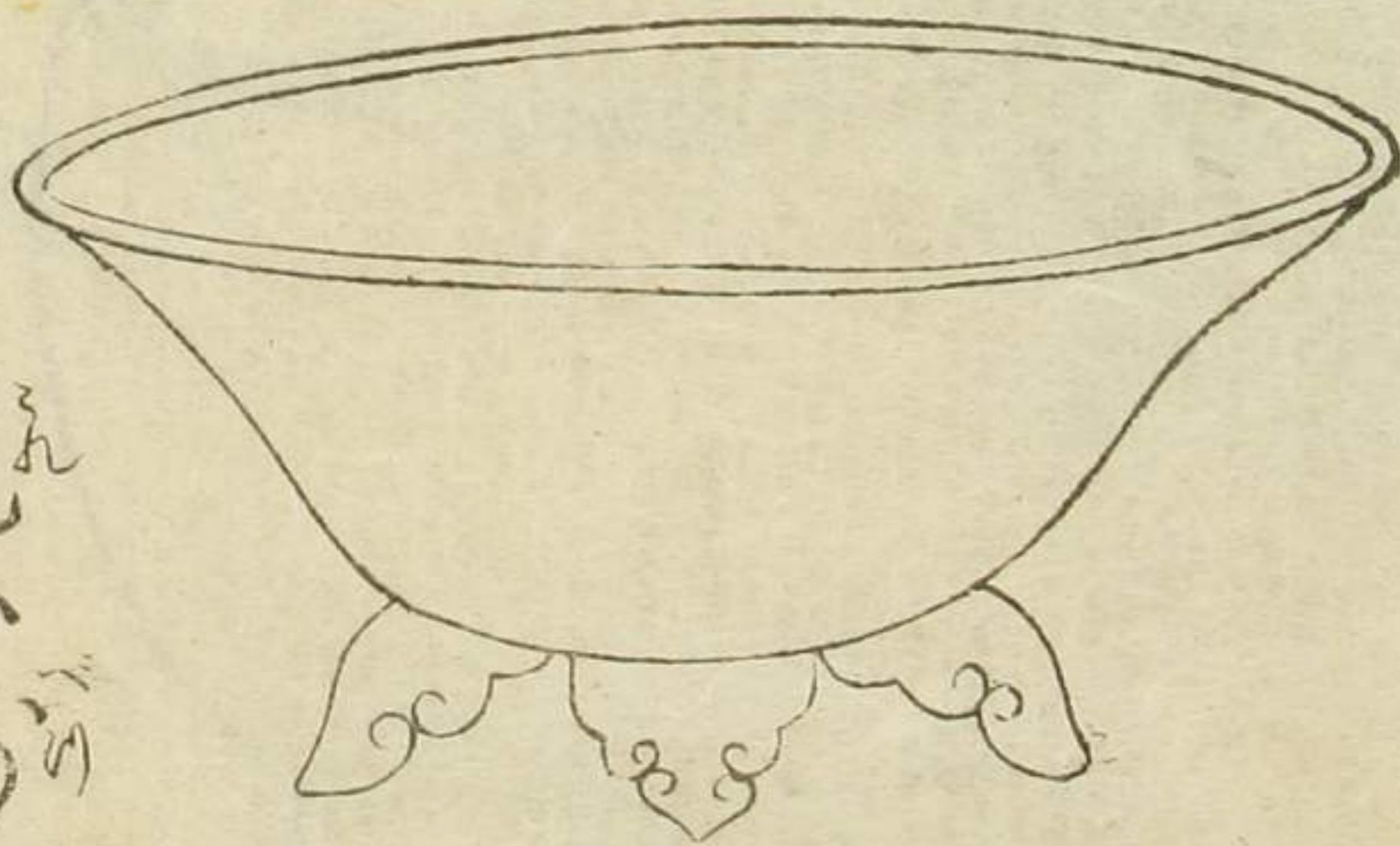
鴨の香爐灰六合

香爐又一葉

灰六合

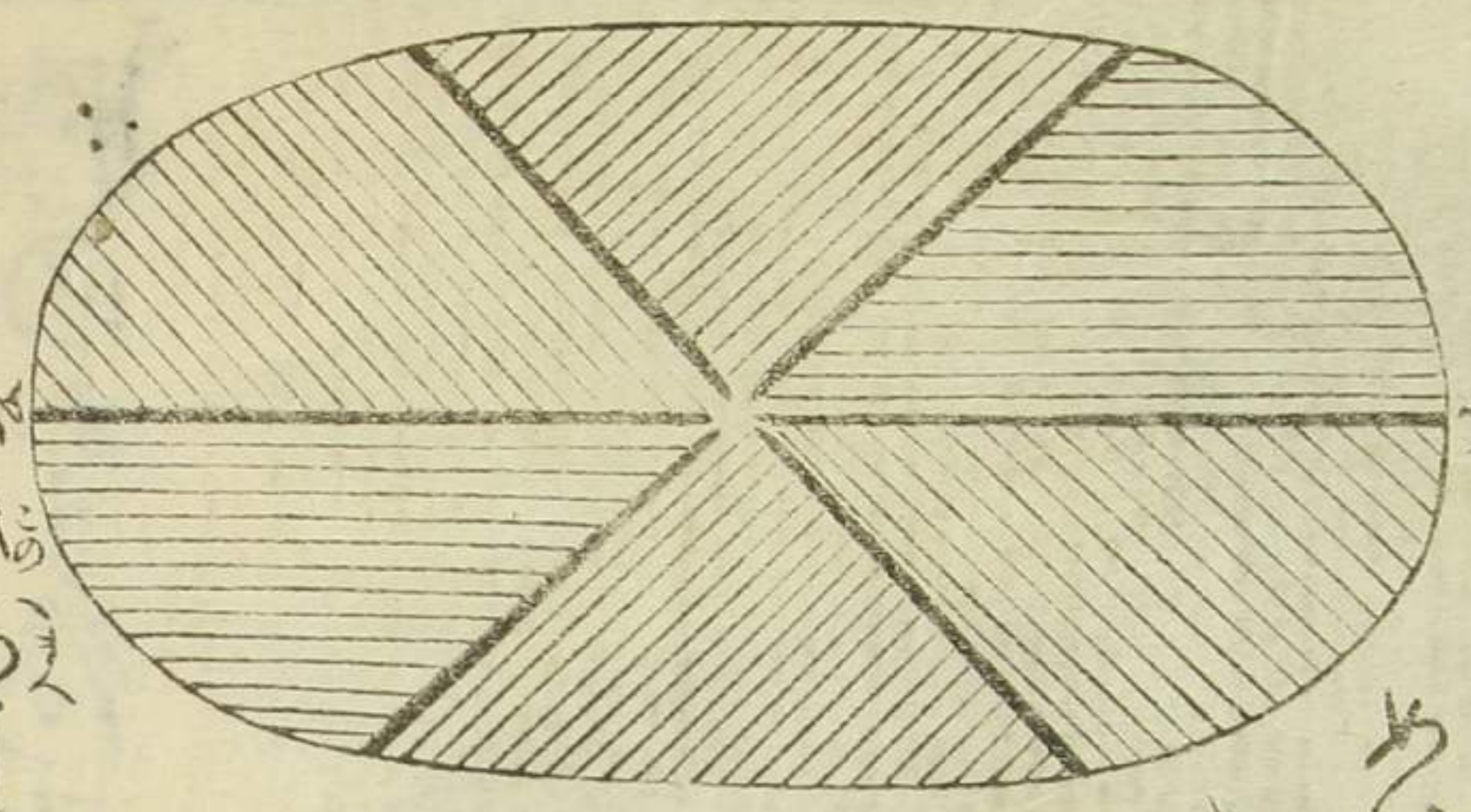


火神香爐灰六合



香道秘傳

物獅子の香煙



香煙

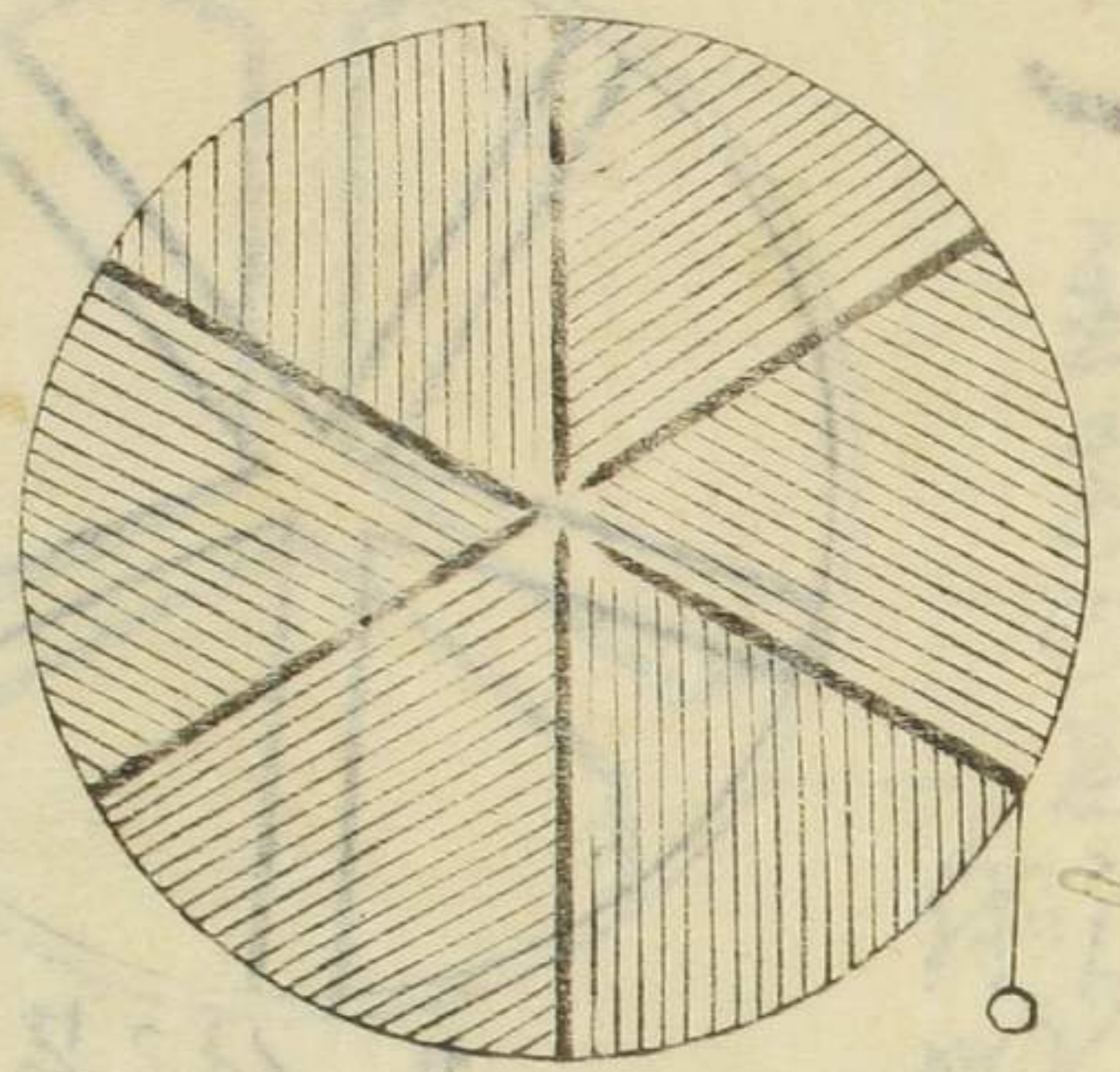
香煙の始



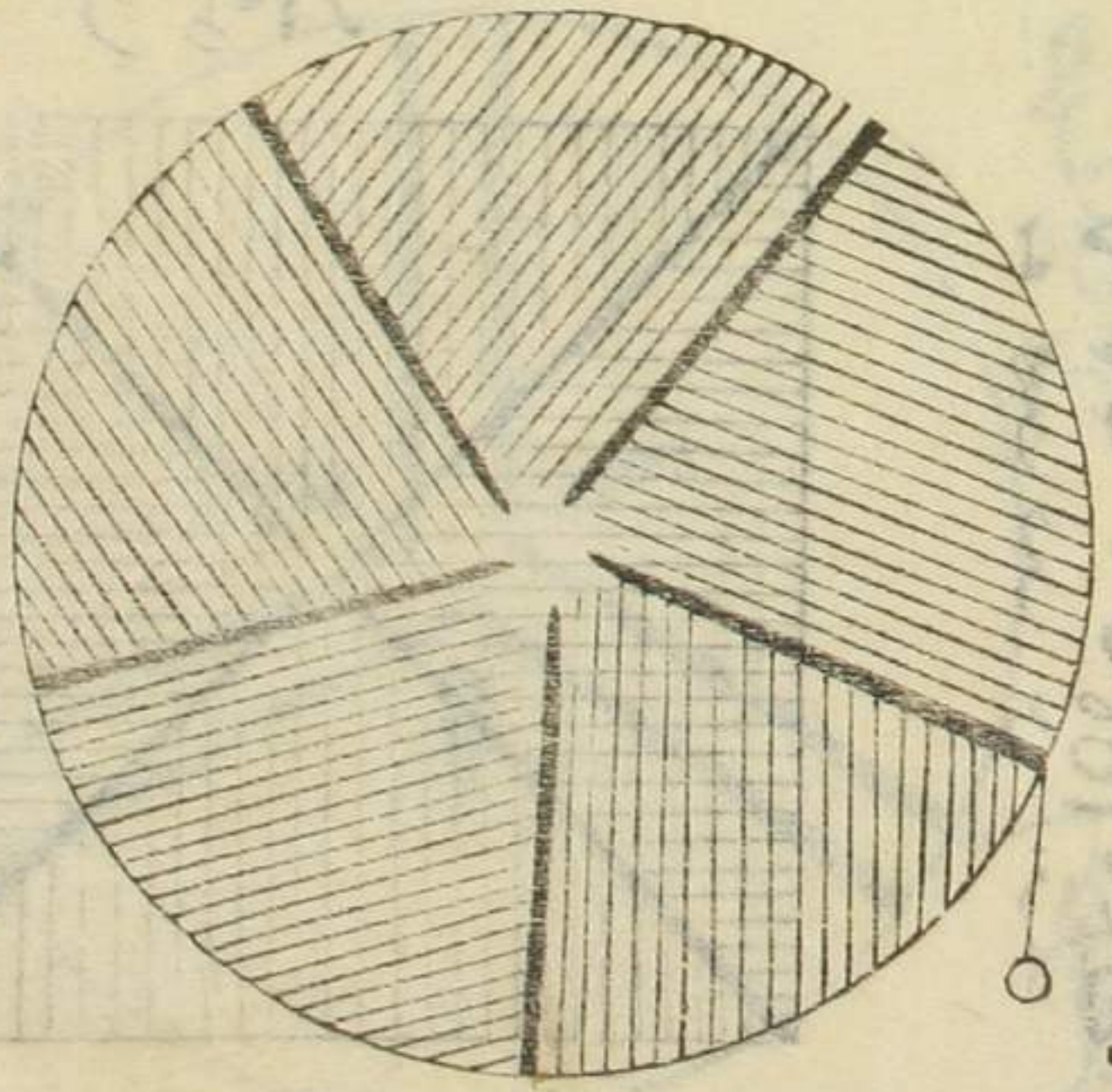
獅子の香煙

香煙

六谷の著めがくれ



み谷の著目



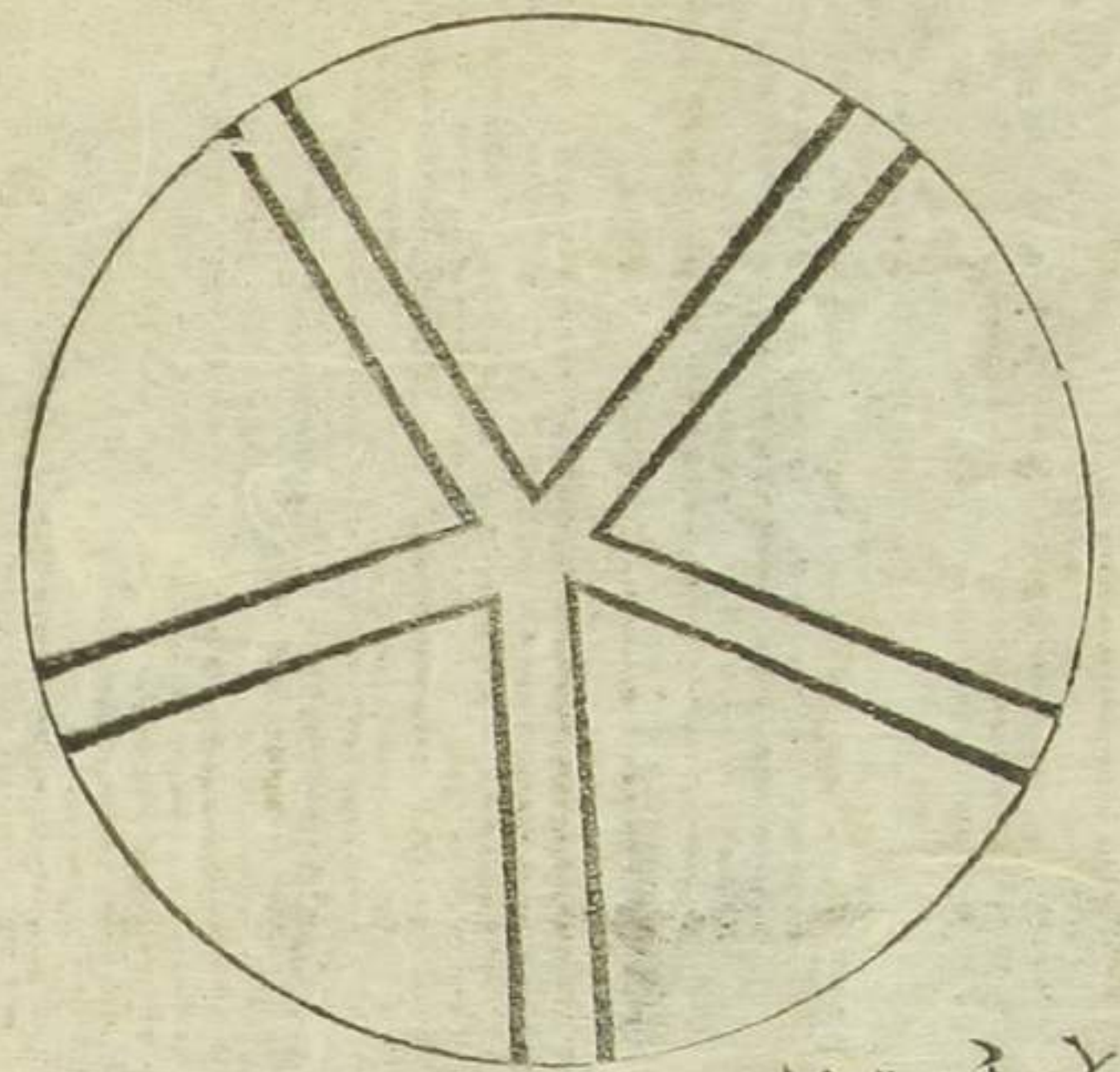
香煙の始

香煙の始

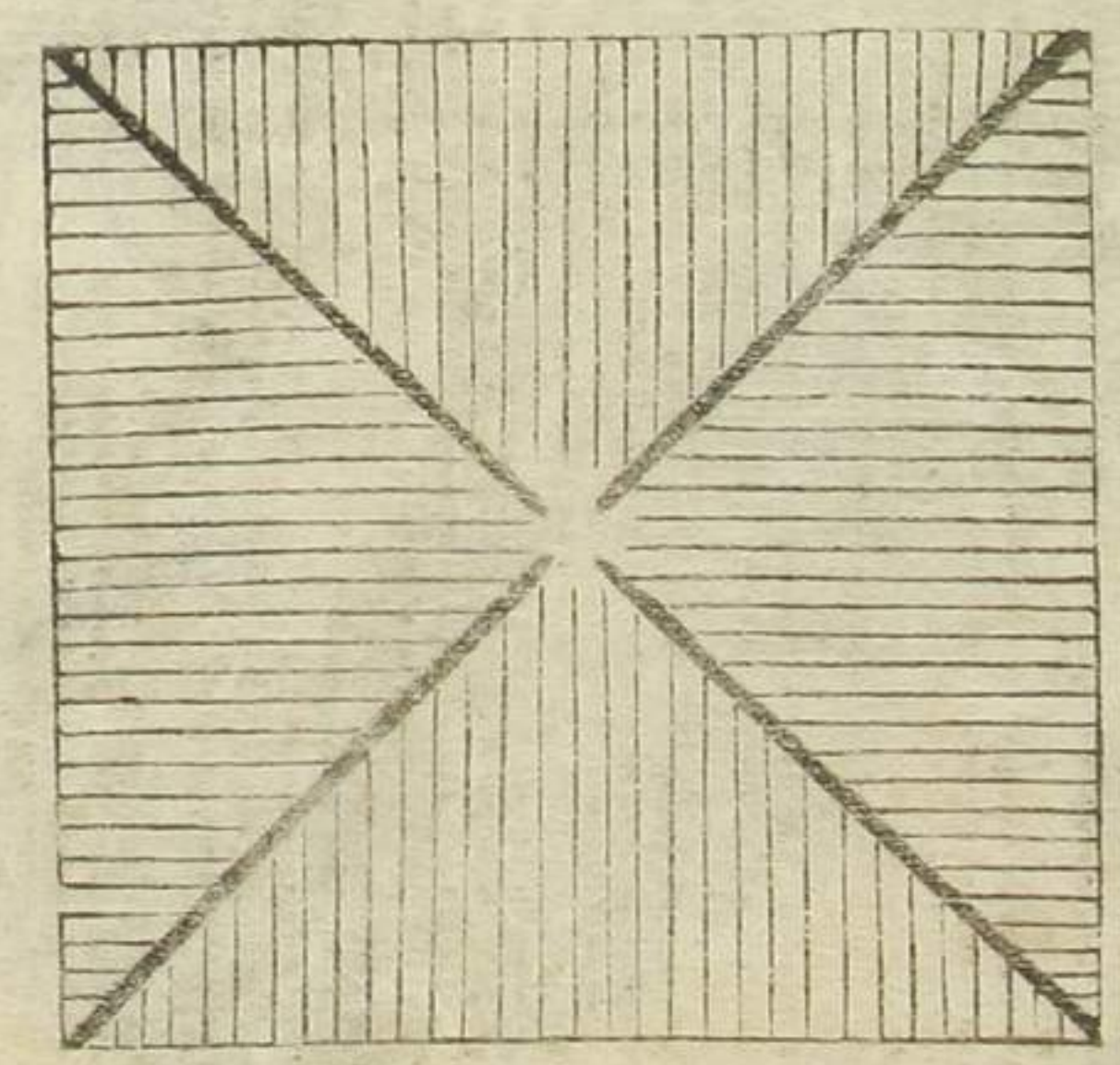
香道秘傳

六

灰草たりの着目也

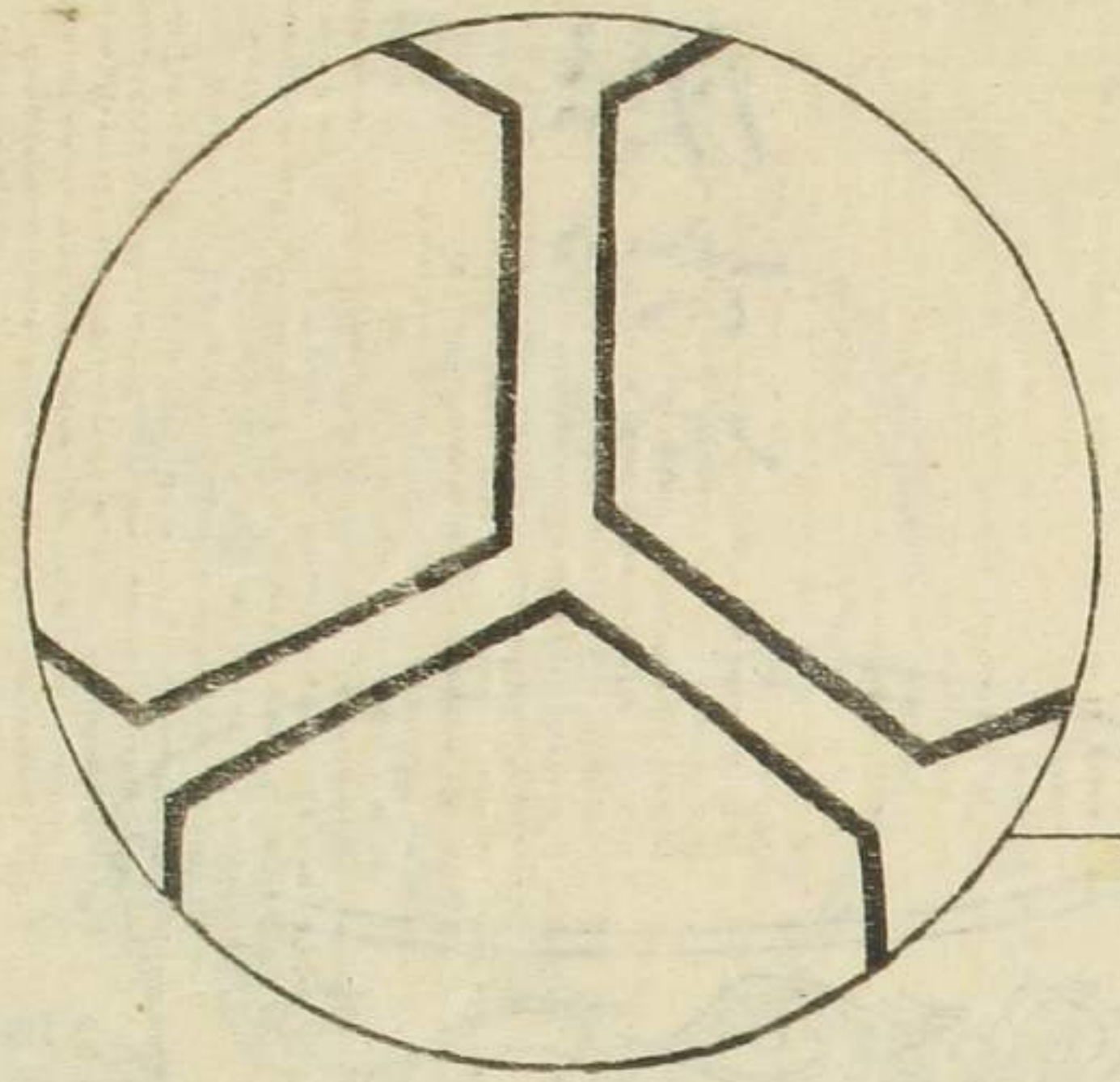


玉おの  
足し  
付始  
カ



四方香燈着  
目也

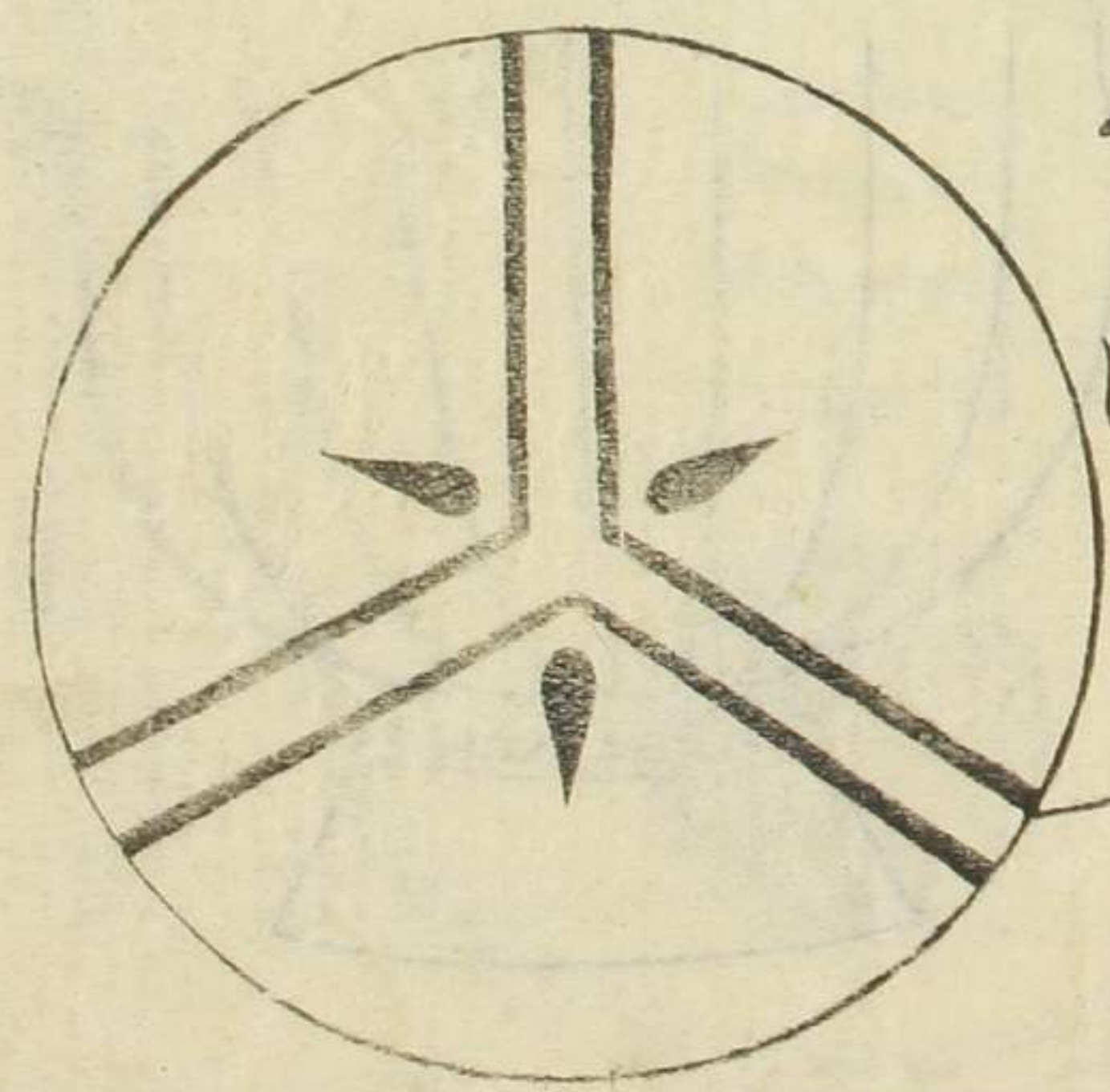
灰の押板を  
玉おの足  
付始



付始

是七回

是八

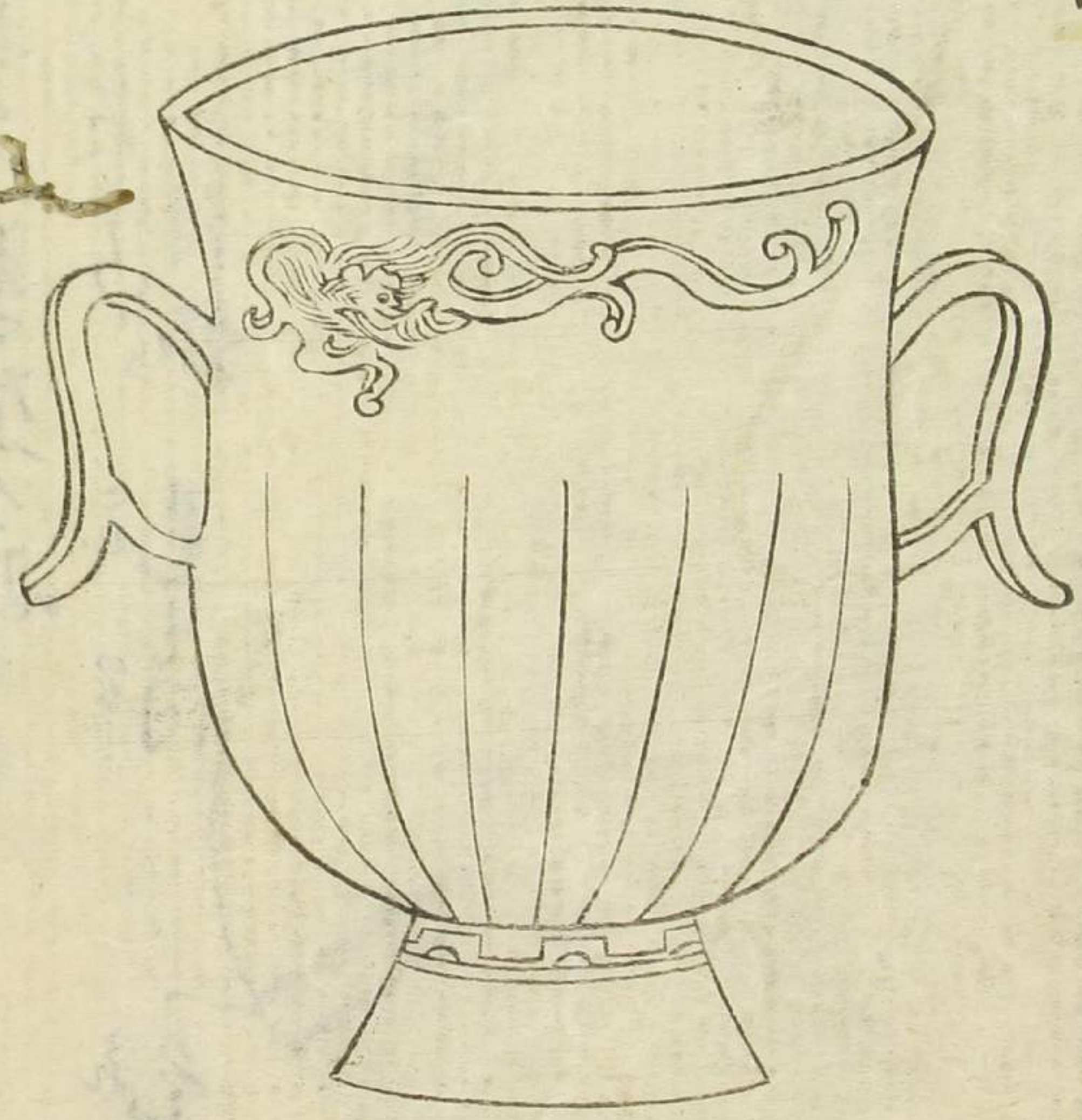


玉おの足し  
付始



二重香爐

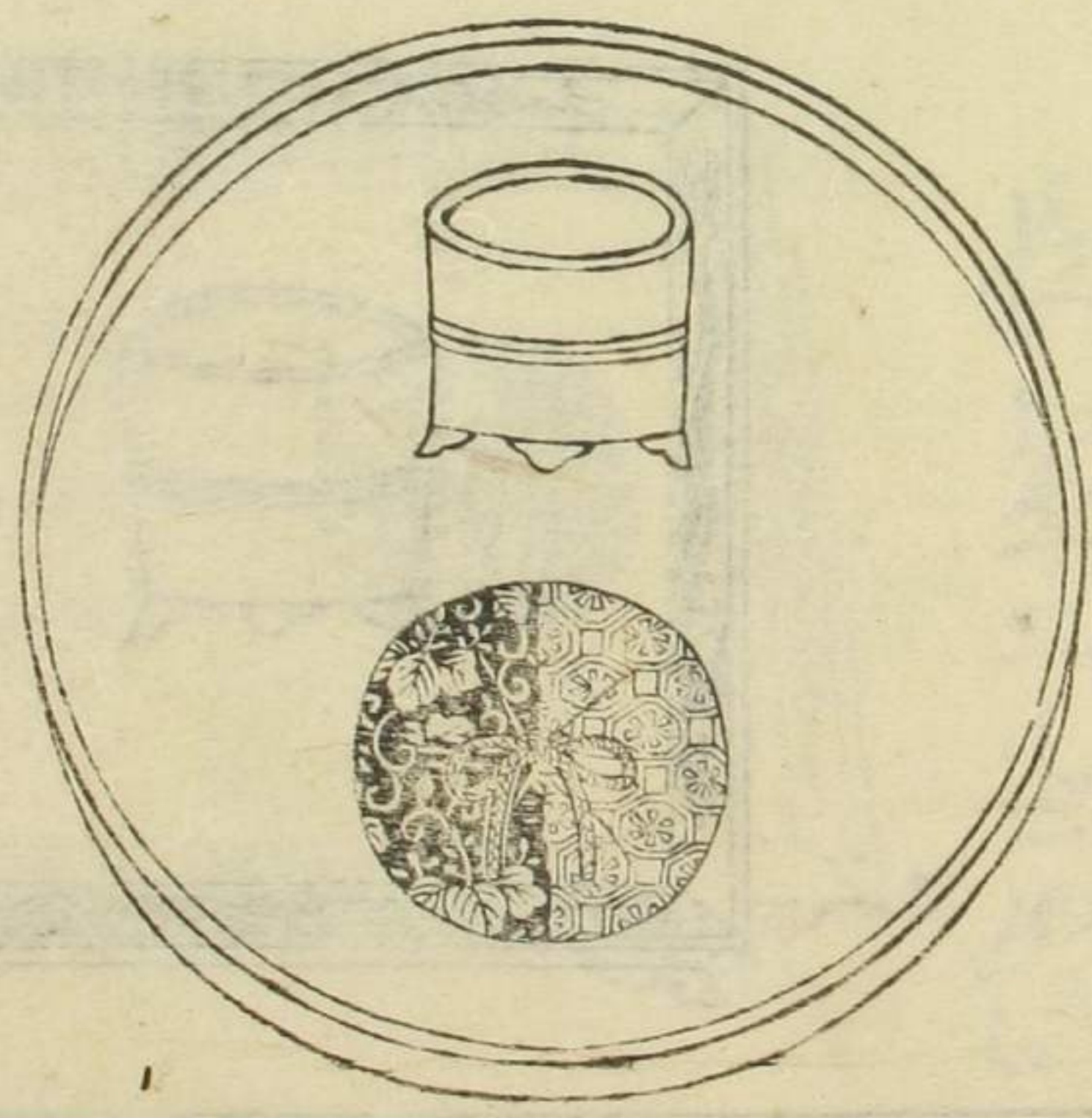
灰六合



香爐傳記

七

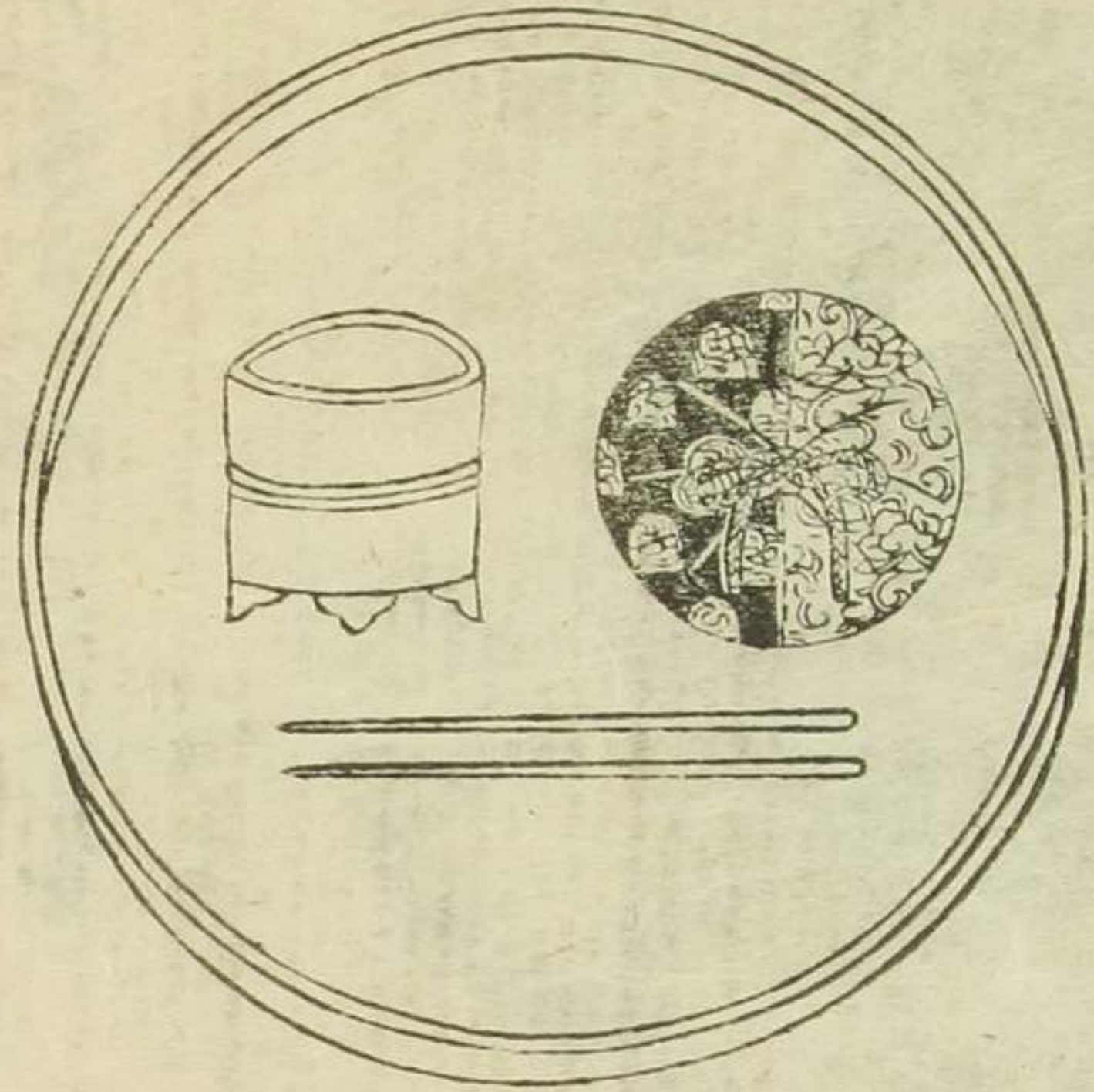
あり物乃ち盆傍に  
花をたは法の旁へ  
人あまおしは花れいと  
白う



丸盆よま時ハ  
袋の底乃ちゆり  
け

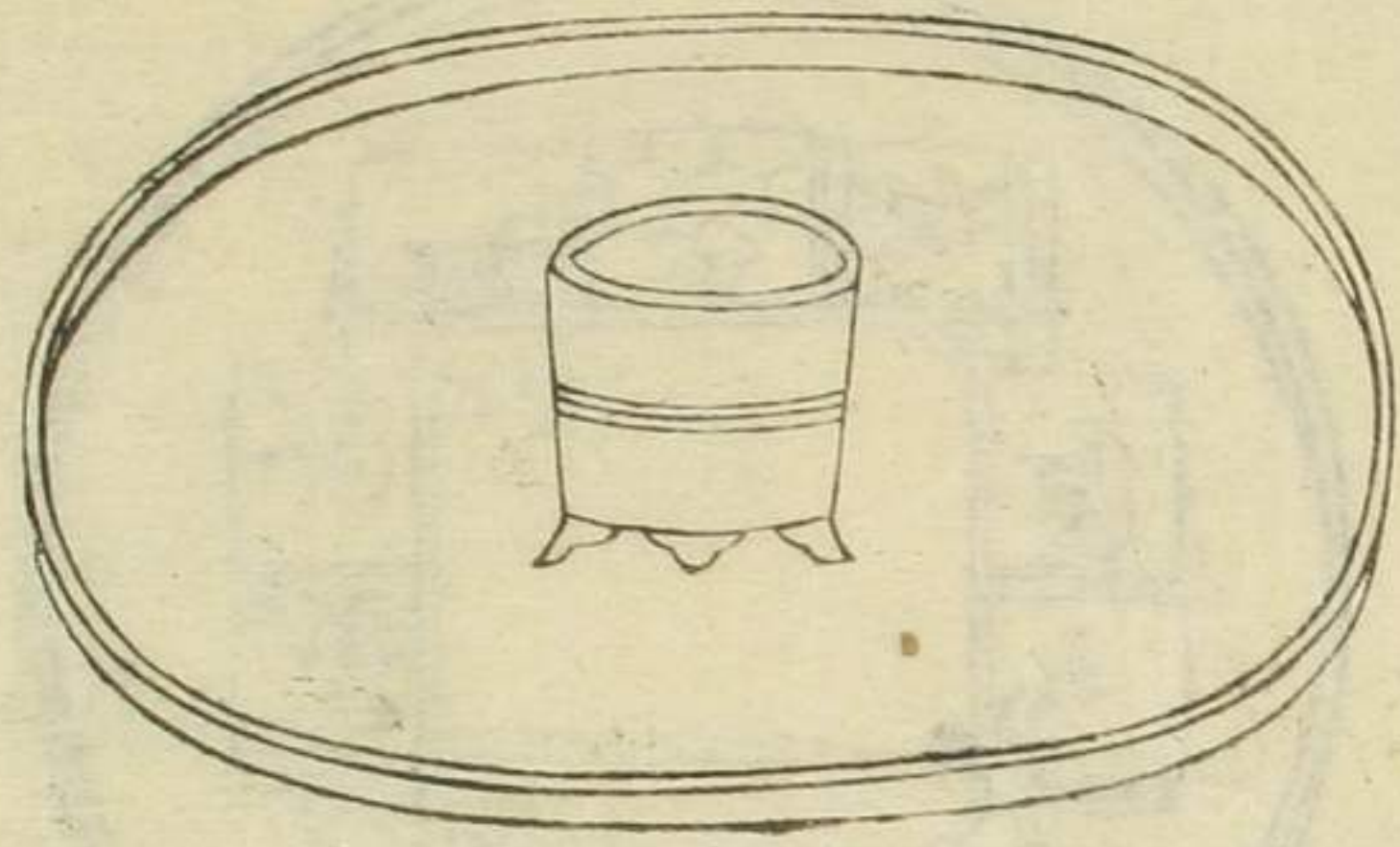
二重香爐傳記

丸盆合也まろがんごあひけ

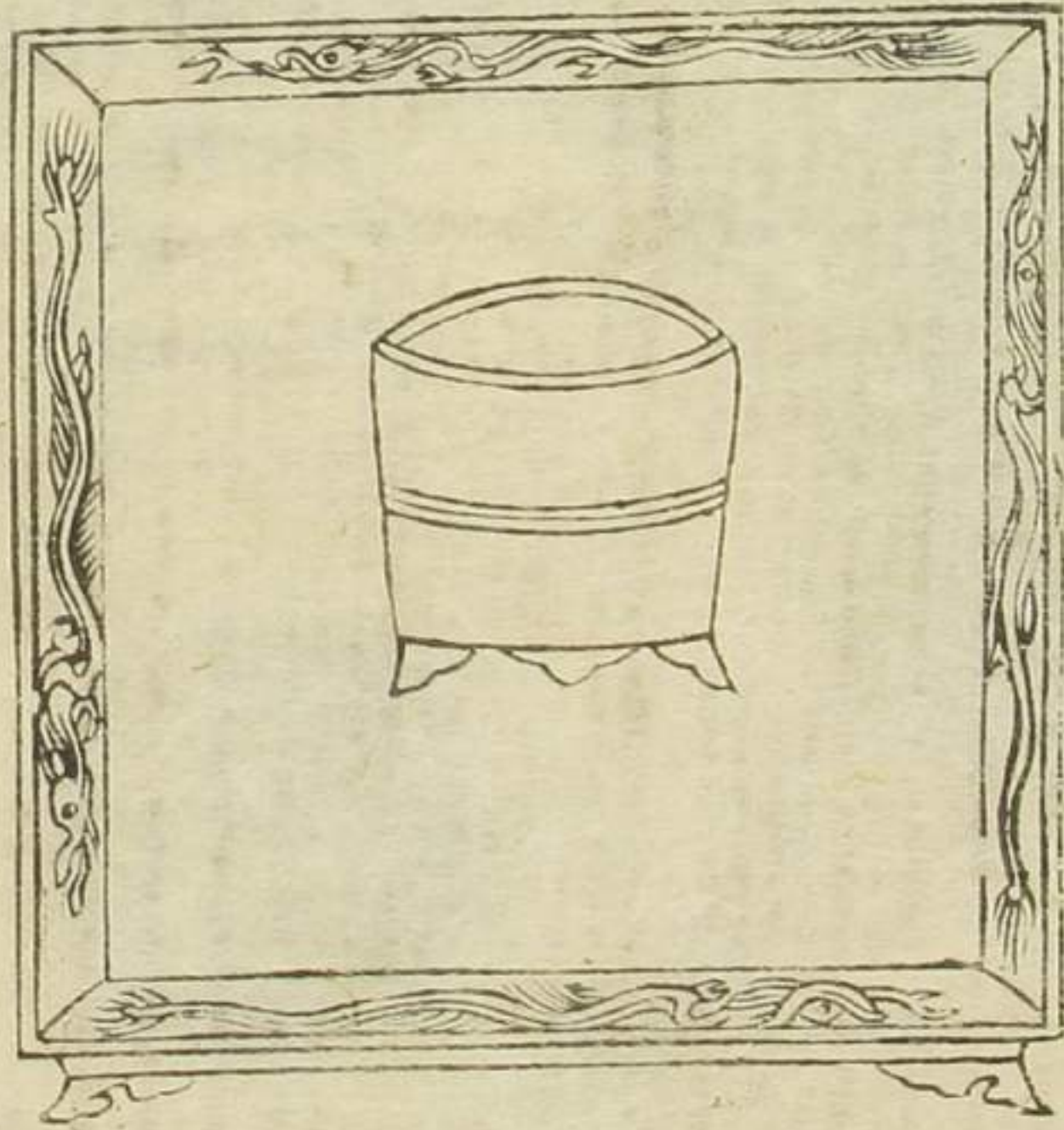


長盆同ながばんどう

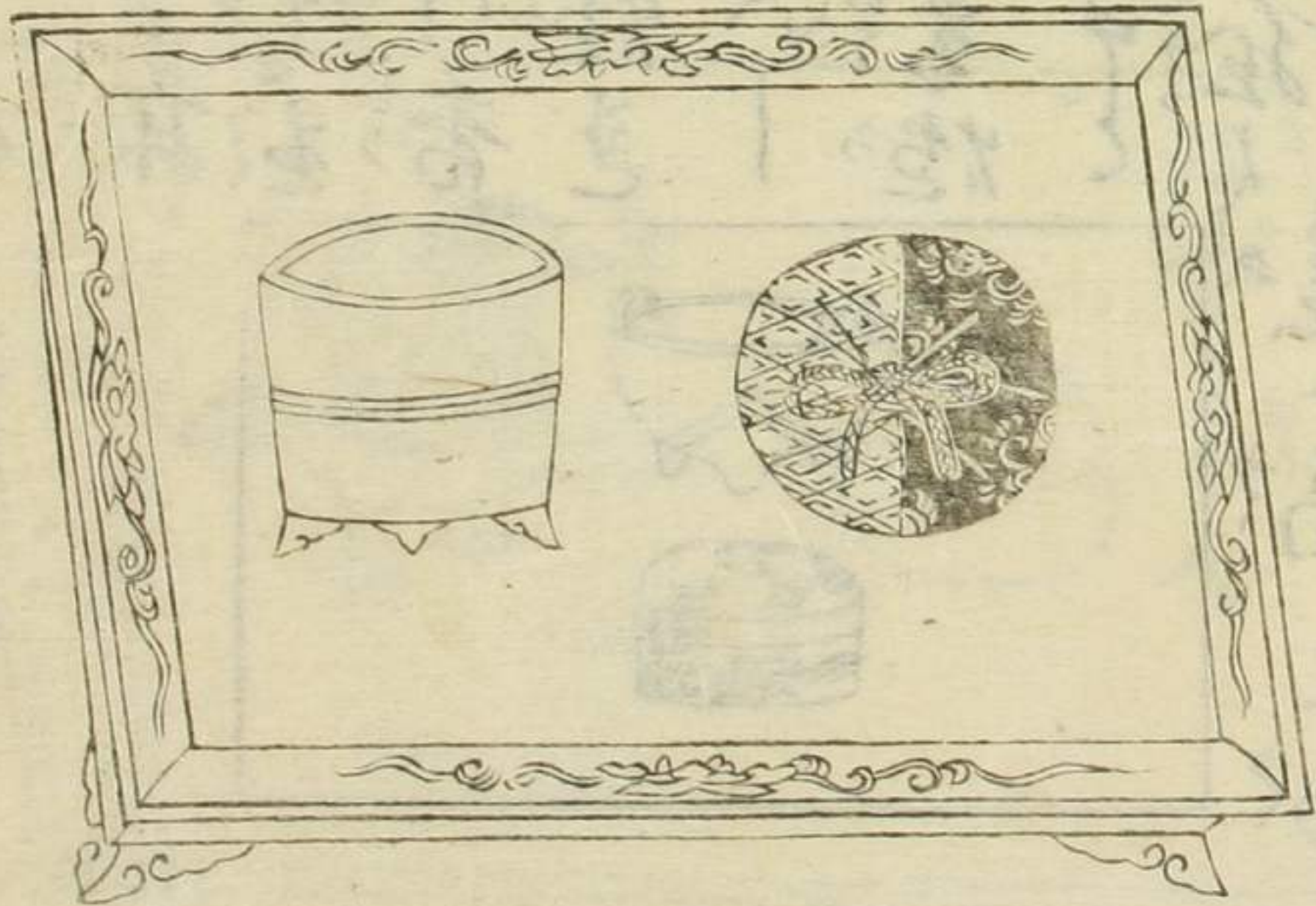
くわがら盆同くわがらばんどう



四方盆也よかたがんでけ

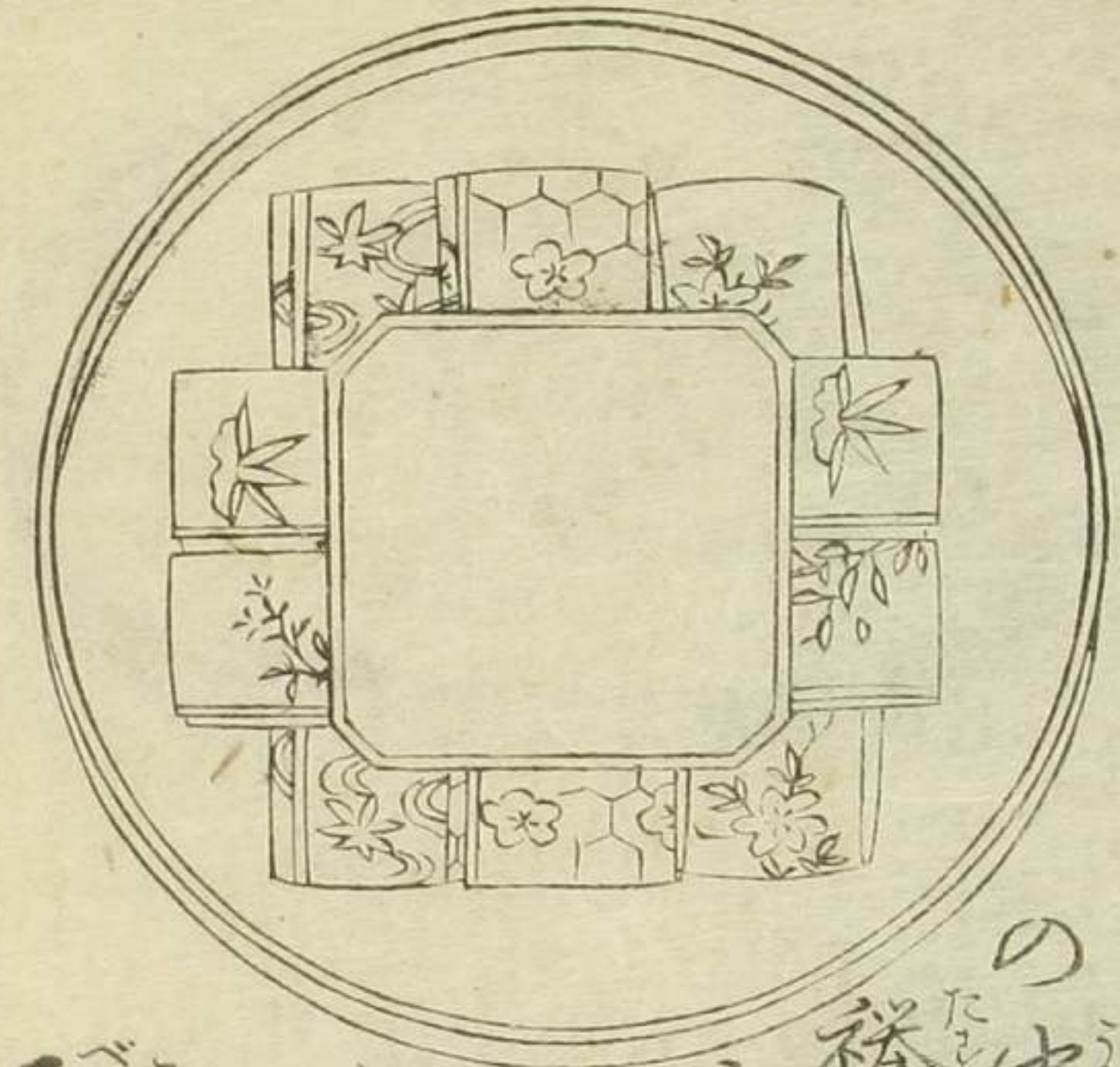


長盆二也ながばんにけ



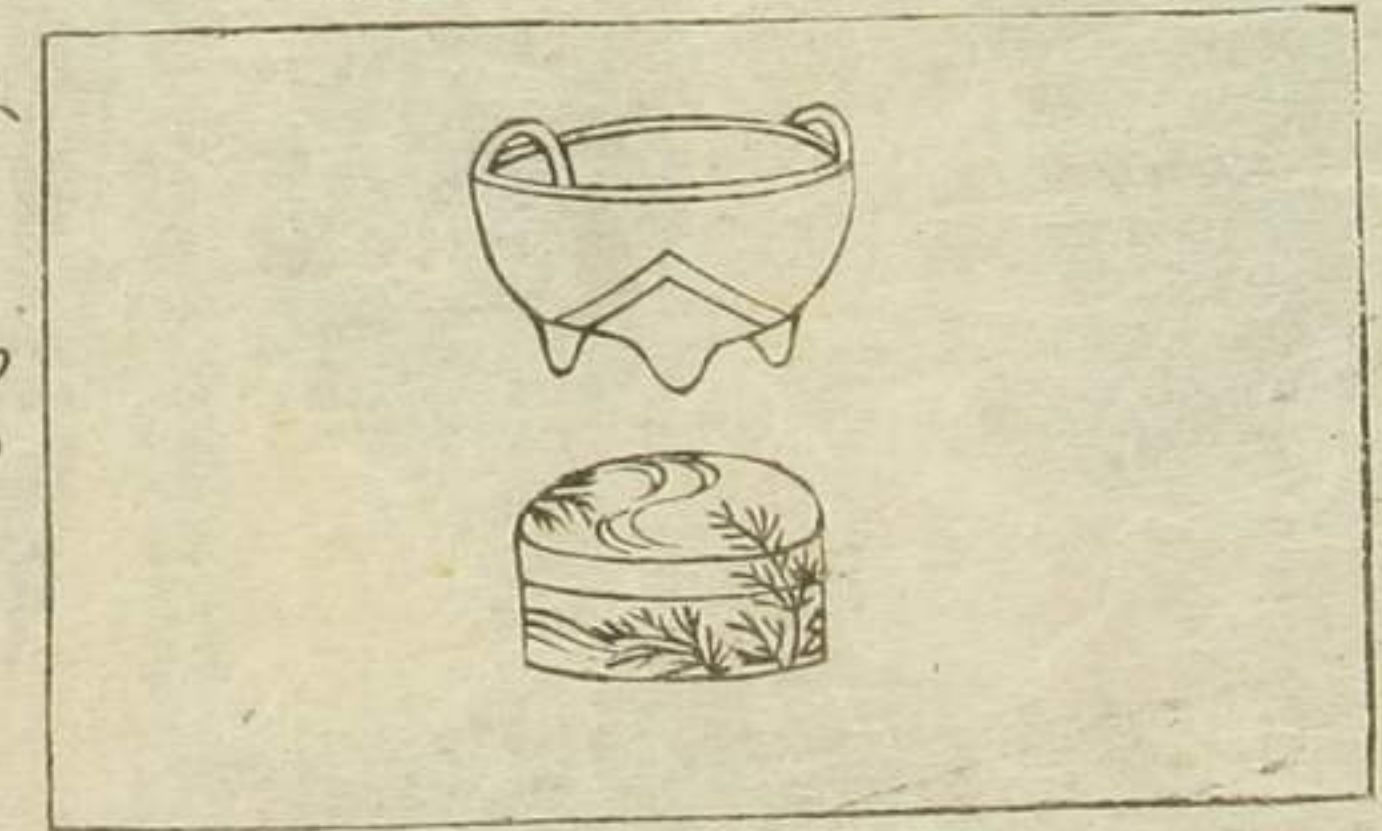
香道秘傳

香合かうごうは名香なかう入いれらるゝいざらは牙がらかくれぬ



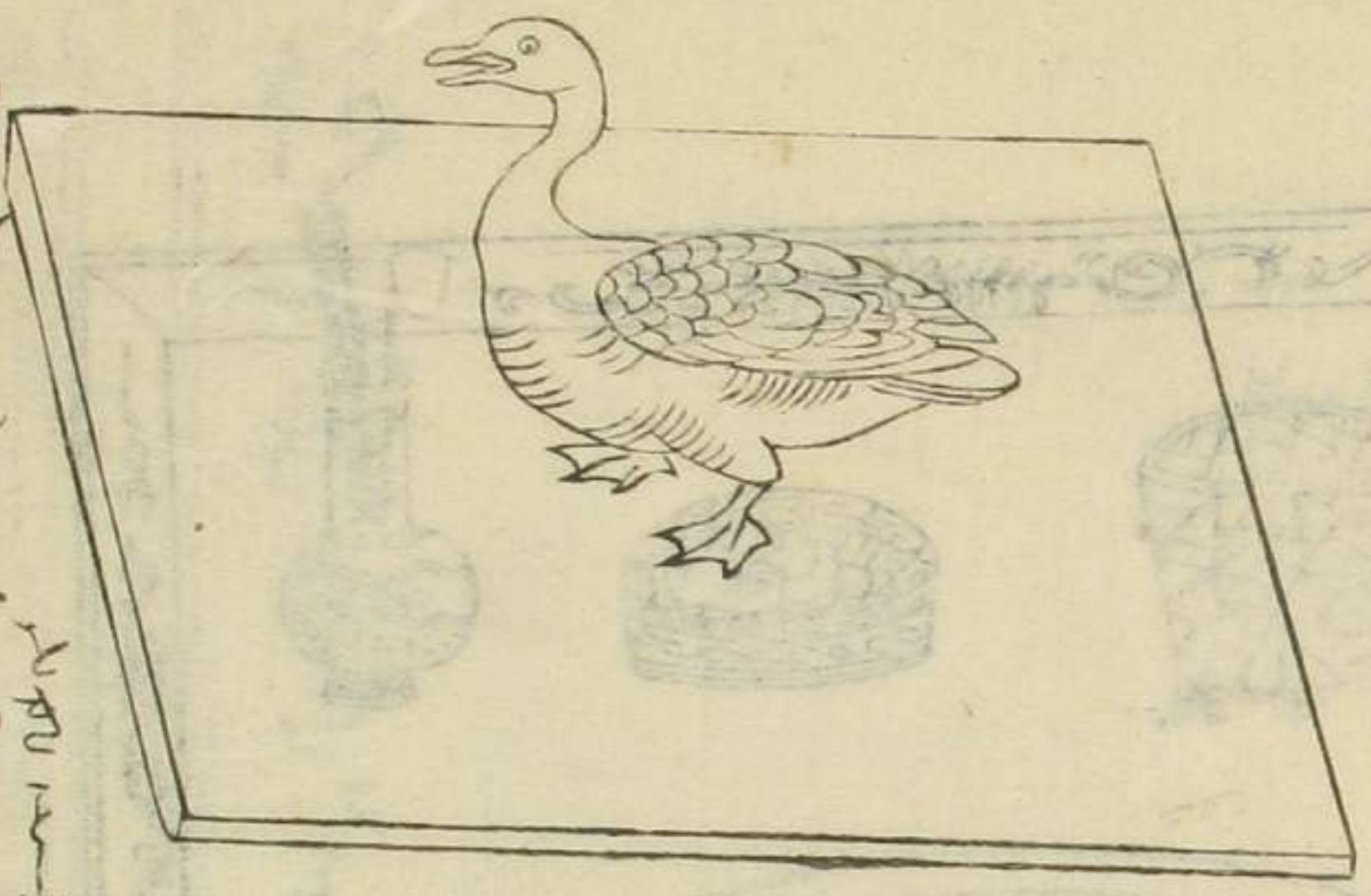
卓たくと床とこの中なかに香かうの匣こはひ

香かうの匣こはひは香かうのたじま香かうのたじま香かうのたじま



色いろけりけりるる  
絵ゑ一幅いっぷくも二幅にぷく一対いったい

鴨かひ記ぎの香かう爐ろ

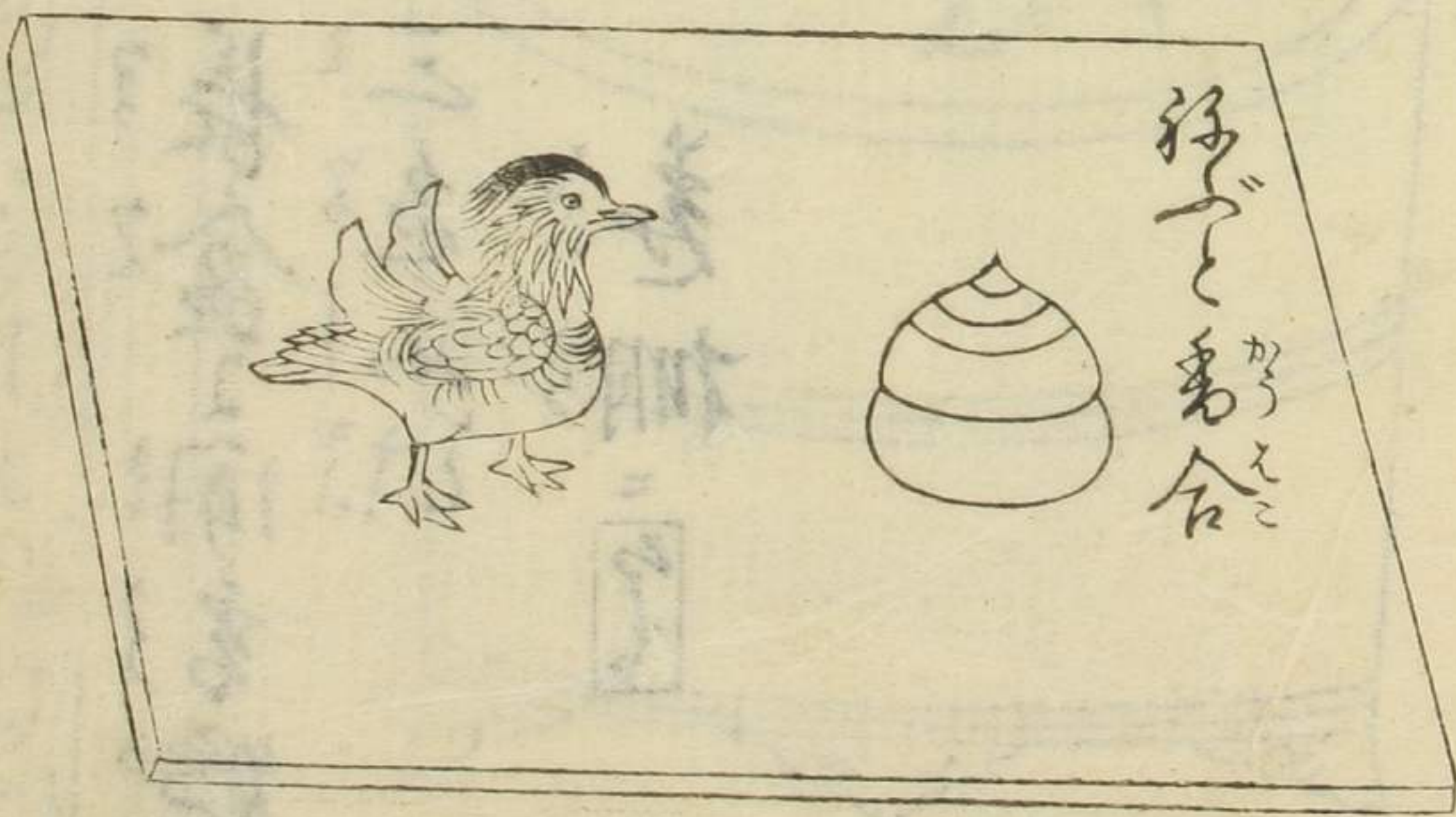


鴨かひ記ぎの香かう爐ろ

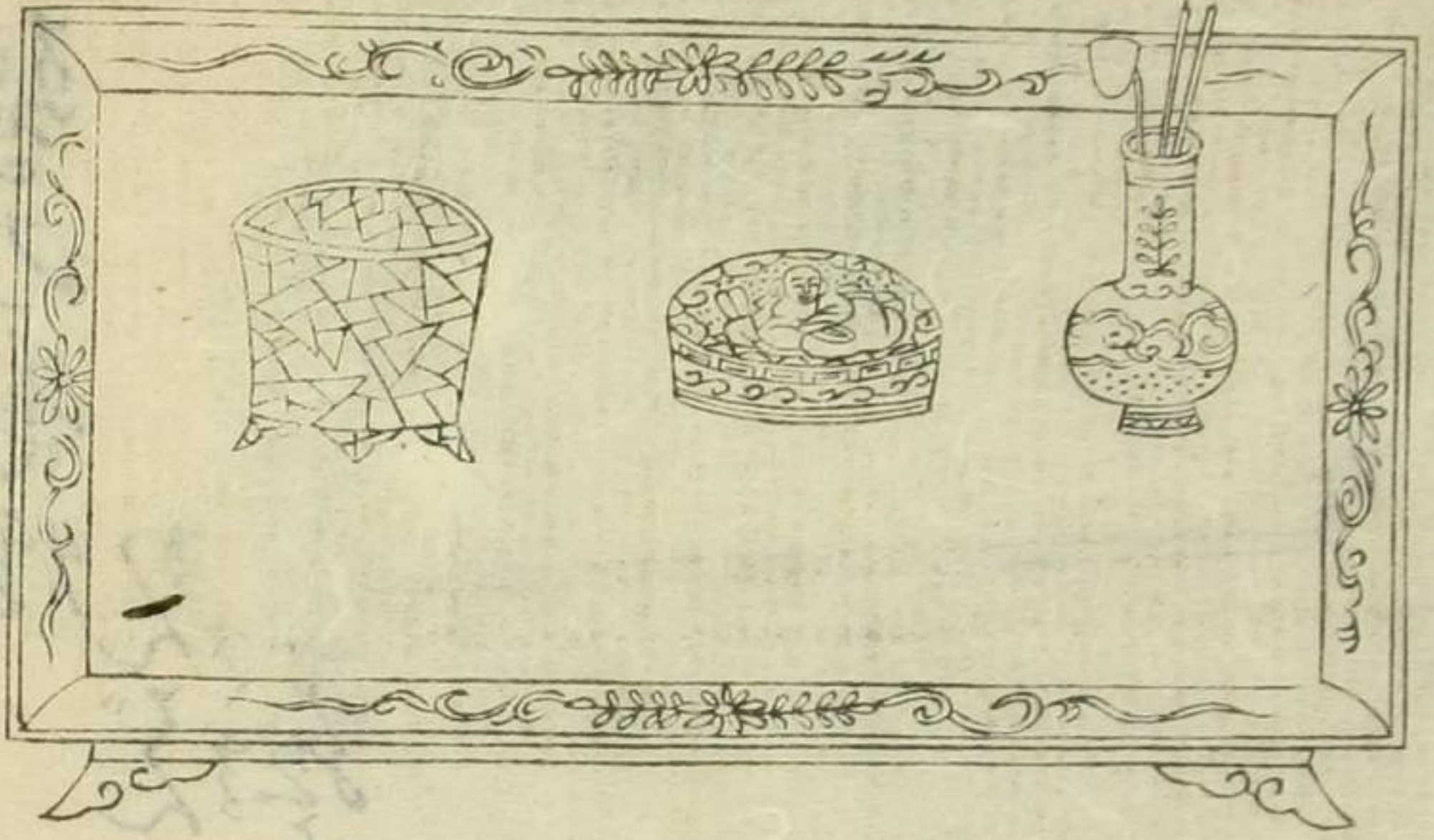
鴨かひ記ぎの香かう爐ろ

香道秘傳

香かう合ごう



香道秘傳



長人魚ながいんぎょの  
三色さんしきめしめし

香棚かやう 中



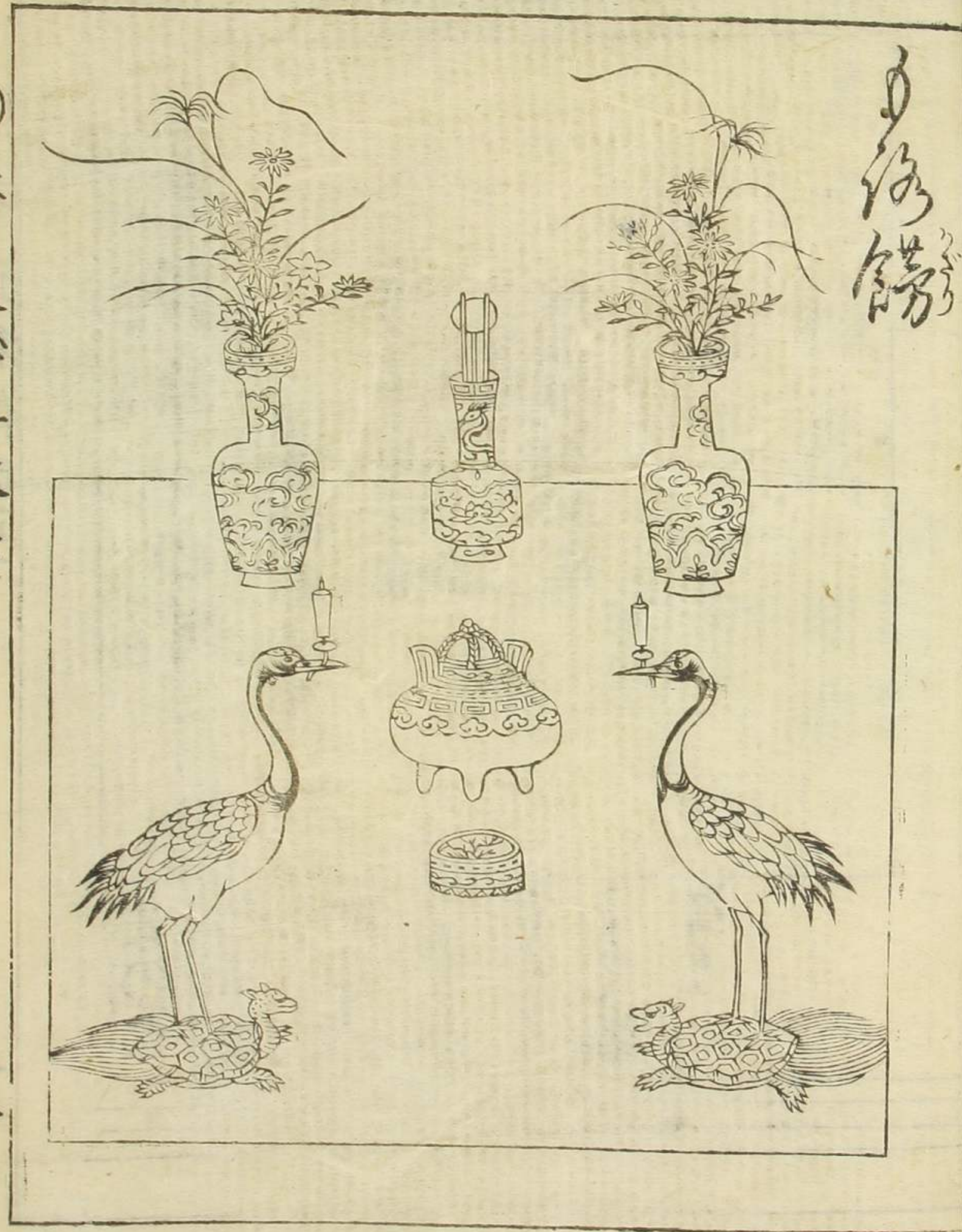
香かの  
座ざの  
時とき  
如ごとけ

何なにも  
油あぶらの  
器うつわ



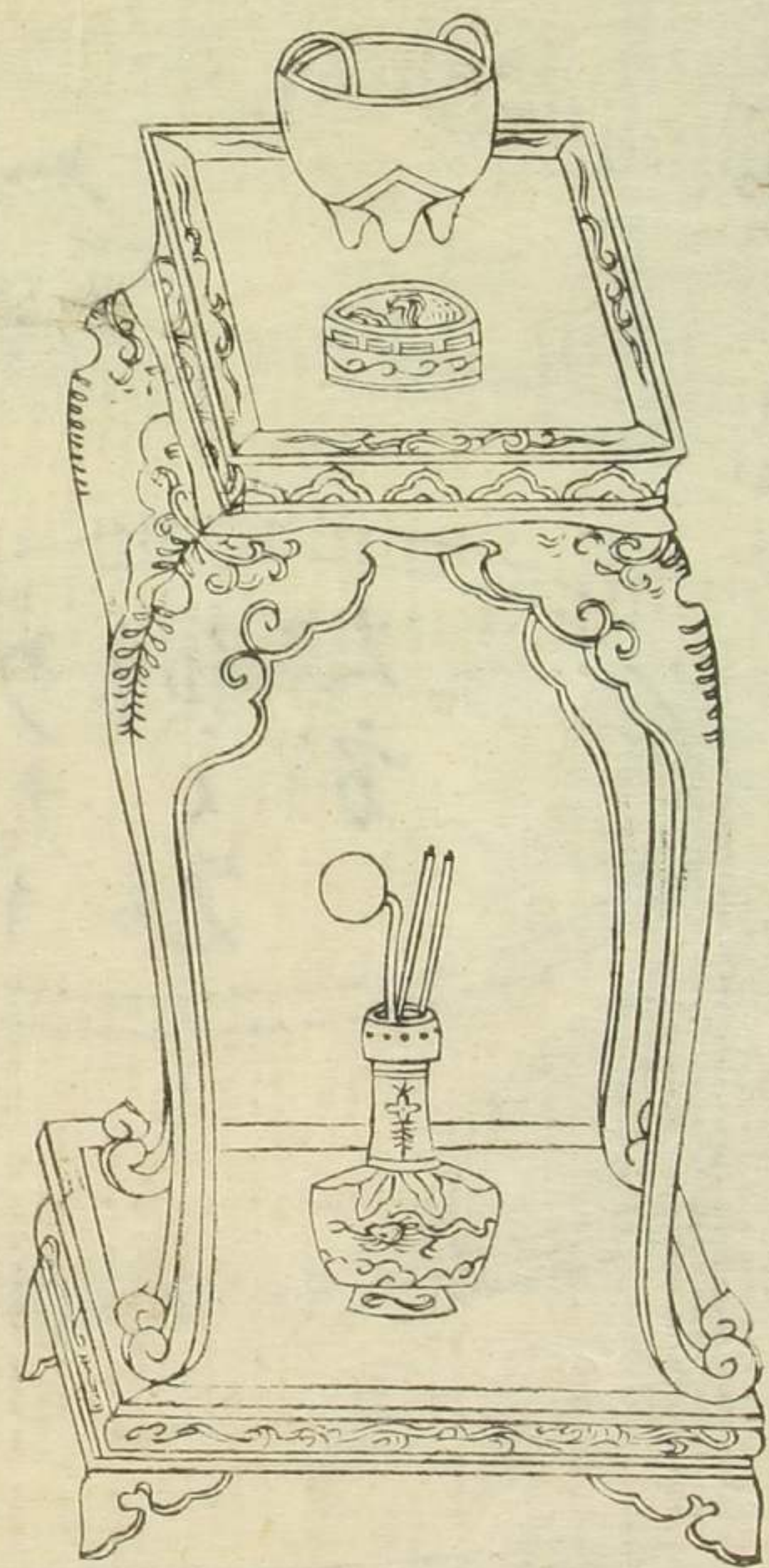
かたき  
魚いさなの  
大おほ方かた

著しよの  
方かたたうて  
たうて  
めて  
も  
同どう義ぎ



ゆめさし

香筋起し灰と香箸  
さし板めけさしとるり



中央の卓筋めは不玉座禪  
又ハ空焼玉

茶室の儀  
茶室の儀  
茶室の儀

小包紙廣さの寸

幅のさく

さく尺その寸方

ニタリ  
さく名と考す

本の表  
の寸方  
松のめ  
こゆふ  
とく  
よそ  
なり

大包紙廣さの寸方

四寸二分  
三寸八分也

たててれす

夫聞香之明德古往今來三國俱以仰慕焉或却標惡而來神仙或瘡沈疴而生娛樂不計勝計故明律曰說六珠價直百千兩金也建初隆勝公嘗傳受異法誠使獲聞香能聖妙而詳辨產去郡縣的分芬芳深時人竊以假名結則忽別真偽乎百發百中而已

于時天正第三乙未仲秋吉辰

洛下翠竹菴道之筆

隆勝入道殿

香爐と備考正

禪香爐 禪字考ふ小字書に

今中書いままの禪字しんじ改禪字かいしんじ

舟香爐ふねかうろうの下した原もと五合ごがうとと異い本ほんににありありよ

川かわ今いま補おぎなと

徳とくののああゆゆりりけけいいふふ之之 分ぶん字じ一いつ本ほん他た毎まいとと改か之し

長なが巻まきはは同どう香かう炉ろう之し色しき也やけけ巻まき棚たな之し巻まき之し

巻まき之し異い本ほんはは巻まき棚たな之し他た方かた是こゝをを

之こゝ一いつ因ゆゑてて本ほん書しよ改か之し

著あつ大だい年ねん方かた 大だい年ねん方かたとと云い事こと異い本ほんはは

他た方かたのの巻まき之し随したがてて本ほん書しよ改か之し

香かう起おこはは異い本ほん各おのづか香かう筋すぢ起おこはは他た方かた今いま是こゝ

よよとといいひひてて本ほん書しよ加か筋すぢ字じ

ててタタリ けけ香かう色しき也や舟ふねののててノノ字じ二にノノ字じ

にに異い本ほんはは他た方かたのの今いま改か之し

奥おく書しよのの中ちゆう 日にち雲うん乃なり二に字じ星せい雲うんのの一いつ字じに

香爐と備考正



依<sup>い</sup>本<sup>ほん</sup>改<sup>か</sup>む

役<sup>やく</sup>今<sup>いま</sup>本<sup>ほん</sup>に<sup>に</sup>より<sup>より</sup>て<sup>て</sup>使<sup>し</sup>字<sup>じ</sup>を<sup>を</sup>改<sup>か</sup>む

右<sup>みぎ</sup>安<sup>やす</sup>翁<sup>うん</sup>齋<sup>さい</sup>字<sup>じ</sup>入<sup>い</sup>香<sup>かう</sup>爐<sup>ろ</sup>乃<sup>の</sup>畫<sup>え</sup>考<sup>かう</sup>正<sup>せい</sup>

一<sup>ひと</sup>圖<sup>ず</sup>も<sup>も</sup>又<sup>また</sup>わ<sup>わ</sup>ら<sup>ら</sup>る<sup>る</sup>もの<sup>もの</sup>ハ<sup>ハ</sup>畫<sup>え</sup>工<sup>こう</sup>を<sup>を</sup>命<sup>めい</sup>す

あまの<sup>あまの</sup>改<sup>か</sup>む

大<sup>おほ</sup>枝<sup>えだ</sup>流<sup>りゅう</sup>芳<sup>ほう</sup>考<sup>かう</sup>正<sup>せい</sup>

武<sup>ぶ</sup>部<sup>ぶ</sup>降<sup>かう</sup>勝<sup>しょう</sup>香<sup>かう</sup>之<sup>の</sup>筆<sup>ひつ</sup>記<sup>き</sup>

香<sup>かう</sup>爐<sup>ろ</sup>液<sup>えき</sup>中<sup>ちゆう</sup>次<sup>じ</sup>才<sup>さい</sup>事<sup>じ</sup>

一<sup>ひと</sup>も<sup>も</sup>人<sup>にん</sup>ノ<sup>ノ</sup>液<sup>えき</sup>中<sup>ちゆう</sup>香<sup>かう</sup>爐<sup>ろ</sup>の<sup>の</sup>香<sup>かう</sup>前<sup>ぜん</sup>乃<sup>の</sup>是<sup>し</sup>と

ま<sup>ま</sup>り<sup>り</sup>た<sup>た</sup>の<sup>の</sup>香<sup>かう</sup>爐<sup>ろ</sup>の<sup>の</sup>香<sup>かう</sup>前<sup>ぜん</sup>乃<sup>の</sup>是<sup>し</sup>と

爐<sup>ろ</sup>の<sup>の</sup>中<sup>ちゆう</sup>より<sup>より</sup>下<sup>した</sup>目<sup>め</sup>より<sup>より</sup>く<sup>く</sup>ら<sup>ら</sup>い<sup>い</sup>る<sup>る</sup>も<sup>も</sup>降<sup>かう</sup>

る<sup>る</sup>下<sup>した</sup>目<sup>め</sup>より<sup>より</sup>く<sup>く</sup>ら<sup>ら</sup>い<sup>い</sup>る<sup>る</sup>も<sup>も</sup>降<sup>かう</sup>

一<sup>ひと</sup>等<sup>とう</sup>半<sup>はん</sup>の<sup>の</sup>人<sup>にん</sup>ノ<sup>ノ</sup>液<sup>えき</sup>中<sup>ちゆう</sup>香<sup>かう</sup>爐<sup>ろ</sup>の<sup>の</sup>香<sup>かう</sup>前<sup>ぜん</sup>乃<sup>の</sup>是<sup>し</sup>と

香<sup>かう</sup>の<sup>の</sup>是<sup>し</sup>と<sup>と</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>り<sup>り</sup>た<sup>た</sup>も<sup>も</sup>ノ<sup>ノ</sup>是<sup>し</sup>と<sup>と</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>り<sup>り</sup>た<sup>た</sup>も<sup>も</sup>ノ<sup>ノ</sup>是<sup>し</sup>と<sup>と</sup>ゆ<sup>ゆ</sup>り<sup>り</sup>た<sup>た</sup>も<sup>も</sup>

香道秘傳

と香爐の口獨よそく液也

下葉の口液付の右の口よそく香爐の

口獨よそく指とつあけて下葉に若

の手れよそく香爐の

女房家は液よそくはのよそく下に

へよそく不液也

香爐の口よそく香爐液付の香爐れ

香の是人の口よそく香爐の

香汁の口よそく香爐の

口よそく香爐の

とたの口よそく香爐の

香の口よそく香爐の

口よそく香爐の

口よそく香爐の

口よそく香爐の

口よそく香爐の

一香爐床の事

香爐は釋迦親を建度布袋敷き

きば茶湯の内床は香炉をへうけお

りてむきの傍三足足の内はけいれん

後も急須一山水たき菓子れはき

よの香爐をへうけ又香爐を所の事

志野入道は圓香爐の床の種は

必す香炉へうけを改然南世の香爐

物はしうりく流大畧床の中は香人

多し又香炉種は香と香炉は布

小あてしうりく又種は香と香炉は

あてしうりく又種は香と香炉は

次目とあてしうりく又種は香と

小茶の香とあてしうりく又種は

今しうりく何をけいれんの物香

一膳は香爐は火と香炉は

香道秘傳改正

目八付く三方より一交の只原よりこのあけ  
 ころは結さんとして香又着目二の  
 けうは香煙の付率もこの畧也  
 一浪乃寸法九分四角と一分とる也  
 にはわの浪  
 一免焼は浪子垂るるに床より  
 一又付あよても廣縁ちとよ中  
 央阜のこは也

但之焼乃香炉ハ物の香炉禱香  
 煙とてり香煙の也  
 一香煙は入火の炭くわ本乃在也  
 一炭とてり炭はさうらるる  
 一炭とのさか炭の香くわ  
 一炭也炭の長七分は五分也  
 一炭とてり圓煙裏ハ風煙もそ  
 一炭とてり自然は合じりくは

くげらうとても所とを著せりけ  
くそとて垂流計の著せり二の付中  
一服先の異儀あり

一卓よりご香爐子也

一香爐袋は入るる事ありし時

ハ香合袋は入るる事ありし時

も袋に入れてし沉香入也

一香爐名物とて家人のたす所也

一香爐入りぬる事ありし時

一香爐入りぬる事ありし時

一香爐入りぬる事ありし時

一香爐入りぬる事ありし時

一香とたす事ありし時

一香とたす事ありし時

一香とたす事ありし時

一香とたす事ありし時

一香とたす事ありし時

一雪の中よりあつに香をたたく

古人の尸史

一名香一握いっかくハふ焼二握ふかくア然しかク之これ朽く

静しずかけりあくくりり三握さんかくアも又また握かくハ

てもた後のち次つぎ牙はもも香かとと焼やくハハ

一太子たいし号ごう法隆寺ほつりゆうじ 蘭らん衣い待たい号ごう東とう寺じ

此こゝ名物なぶつの香かハ内うち焼やくハハ守まもるる香かハ

かどくかどく之これ業わざ内うちハハ所ところににたたくく

尸し史しハハ所ところににたたくくハハ道みちと

知しららるる事ことハハ人ひとととててたたくくハハ

不ふ浄じやうノ事ことハハ内うちにに沈しん卵らんハハ香かハ

然しかくく沈しん卵らんハハ赤せき梅ばい檀たんハハ名な丹たん震しんと

尸し香かハハどどくくハハ

一十一じゅういち種しゆ名物なぶつの香かハハ事こと

法隆寺ほつりゆうじ太子たいしカカ尸し 蘭らん衣い待たい号ごう東とう寺じ

逍遙せうぎやう 三さん女にょ芳ほう野の

香道秘傳改正下

三十一

紅麩

中川

追加  
多橋

園城寺

古来

法花經

八橋

一又十種の内乃香又その外の名香は四

季急新紙云々折々とたくん

一名香包紙のりた包小包又へ香

合おいきば折紙も小包あり

一名香十一種ハ包打やう別はあり

一名合よ香包て入奉三様又様より銀

も入包紙さん下入やう口傳り

ム

一番合よ包焼乃既香又入れ入る沈乃

寸長さ三分幅二分厚さ一分也

一鴨子獅の香煙よそ火と乳香同子

わぶ羽えりり香煙ハ頼とたへ

香道和傳改正下

三三

る一足とよよとく聞べ一又辨ら  
下の事分してりりら香煙ハ物れし  
と伊人の志の事一り人又物乃香煙  
香煙ノ物ノ香煙との文字と入  
ヤシ

一香煙ノ物ノ香煙とつる事とある  
の人よあつくりたる人率もあり香  
物ハ率直事人者大物袋入人又

一香煙ノ物ノ香煙とつる事とある  
下座の事獨一何とくく見  
さるるに事あり香煙と物事  
香煙一物直事の香煙一物直事に  
二三物沈物と物何と物一物け分  
又物計物とく  
一香煙ノ物ノ香煙とつる事とある

香道和傳己上  
三十三



ていし いん 一人の友 いん 友の友 いん 友の友

一 火とみくら香煙 いん 火とみくら香煙 いん 火とみくら香煙

一 煙とみくら いん 煙とみくら いん 煙とみくら

一 火付 いん 火付 いん 火付

一 香煙の所と押事 いん 香煙の所と押事 いん 香煙の所と押事

一 香煙 いん 香煙 いん 香煙

一 香煙 いん 香煙 いん 香煙

一 床の いん 床の いん 床の

一 名香 いん 名香 いん 名香

一 香煙 いん 香煙 いん 香煙

一 香煙 いん 香煙 いん 香煙

一 香煙 いん 香煙 いん 香煙

一 香煙 いん 香煙 いん 香煙

一 香煙 いん 香煙 いん 香煙

一 香煙 いん 香煙 いん 香煙

一 香煙 いん 香煙 いん 香煙

法蓮寺 園城寺

香道秘傳改正下

似に似に

楊やう半はん妃ひ

月つき

法ほふ花け

丹たん霞せ

落らく雲うん

菱りやう蓉じやう

十じゆ九く

般はん若じやく

玄げん宗そう

立た田でん

充ちゆう梅び

紅こう

上じやう馬ま

山さん陰いん

多た村むら

黛たい

青せい梅び

斜しゃ月げつ

八はち重じゆう垣げん

落らく紅こう

八はち重じゆう菊きく

ちち見み編へん

紫むらさ良ら芝し

第だい

子こ系けい

若わ菜さい

新しん伽が羅ら分ぶん

留りう士し烟えん

花はな取と見み

落らく紅こう系けい

留りう士し

瓶びん波は

武ぶ藏ざう野の

羅ら國こく分ぶん

右みぎ本ほん

八はち橋はし

甘かん代だい

葛か蒲ぼ

瑞ずい月げつ良ら年ねん

香道必傳文正下

香道必傳文正下

統

出鷹

二葉

沈外

松根

中川

宝梅

白梅

早梅

紫子

寢光

七夕

次干

石

鴈金

候寢

松風

生如雲分

魚襦

夕時面

野分

日氣花

雉子

弓的

花鳥

右名者本如松新中約如死新徳姓

所國生如班生如加右飛也心心

別江進くハハ生事多活有る定る

之孫下有也其くも存人如成之は心

得外見用於為用ハ四也件 隆勝

香道必專文三三

二十六

名香園の事

法隆寺 太子

茶旗檀子まきのまもま金かねくまややり  
海うみくまり

一 東とう馬ば 伽羅がら子しををくく出でるる又また仲なつ矢や

くくままははたたりりてて又また仲なつあありりままりり

よよははたたりりてて心こころははたたりり東とう馬ば 伽羅がら子し

うう海うみくくままりりてて心こころははたたりり東とう馬ば 伽羅がら子し

一 逍遙 伽羅がら子しのの早はやくく出でるる又また仲なつ矢や

大おほききのの早はやくく出でるる又また仲なつあありりままりり

茶ちや 伽羅がら子しのの早はやくく出でるる又また仲なつあありりままりり

一 三吉野 伽羅がら子しのの早はやくく出でるる又また仲なつあありりままりり

初はつめめのの香かととのの早はやくく出でるる又また仲なつあありりままりり

のの香かととのの早はやくく出でるる又また仲なつあありりままりり

一 法花經 伽羅がら子しのの早はやくく出でるる又また仲なつあありりままりり

付つききのの早はやくく出でるる又また仲なつあありりままりり

一 花巻の御所はなまきのみしよは遠くとほく柳やなぎの香かほゆき  
くそくくそくの香かほは同おなじの香かほは先まづは楊やなぎ花はなの  
とせん香かほれ中なかつ一いつ段だんの香かほは火か末すえ香かほの同おなじ  
こがく古こ本ほん香かほの國くにの香かほは柳やなぎの香かほの  
おとせ花はな巻まきの香かほは葛くわ蒲ぼと大おほに同おなじの  
しん花はな巻まきの香かほは柳やなぎの香かほの香かほは  
おほ大おほの香かほは葛くわ蒲ぼの香かほは  
なかつ中なかつ門かどの香かほは先まづは柳やなぎの香かほは  
おほ大おほの香かほは葛くわ蒲ぼの香かほは

一 花巻の御所はなまきのみしよは遠くとほく柳やなぎの香かほゆき  
くそくくそくの香かほは同おなじの香かほは先まづは楊やなぎ花はなの  
とせん香かほれ中なかつ一いつ段だんの香かほは火か末すえ香かほの同おなじ  
こがく古こ本ほん香かほの國くにの香かほは柳やなぎの香かほの  
おとせ花はな巻まきの香かほは葛くわ蒲ぼと大おほに同おなじの  
しん花はな巻まきの香かほは柳やなぎの香かほの香かほは  
おほ大おほの香かほは葛くわ蒲ぼの香かほは  
なかつ中なかつ門かどの香かほは先まづは柳やなぎの香かほは  
おほ大おほの香かほは葛くわ蒲ぼの香かほは

中戸と申すは次たる一と申すは  
るふなり

こゝ十一粒

一似圓と云ふは丸末たるより位を正しく

中戸と云ふは丸末たるより位を正しく

一富士烟中戸新体丸末たるより位を正しく

同士の

一葛蒲木と云ふは國中へ女も死すの事

ササキ丸と云ふは物のあや先は湯茶

焼中戸丸末を正しく又中戸と云ふは

と申すは一筋は丸末を正しくと云ふは

ハ茶丸と云ふは丸末の香健と云ふは

一飯丸と云ふは丸末の香健と云ふは

一ハ茶丸と云ふは丸末の香健と云ふは

似と同士の

一鶴鳩丸と云ふは丸末の香健と云ふは

青の方分あな花紅く竹の本雨そ  
もみはらり中そ本色々よらり  
あやこげんちり

揚そ花そ依所開る川くくわう

げき内針そちくくつさかく極子

ろ中は花火末へ似と同あ

一玄宗そ依所中うはくくはる肉ら

くときら開は花火香一腹あけ火

どあハ揚そ紀と同茶

一青梅本雨依所本色々すくちりく

ち新る青梅のそは花

一花梅いまそ本路そ不中

一梅花中路中そ中あは花中

性そ笑そ中

一漂橋そ依所路花のそ花

二間中そ分列そ中

一月より依死中いづ中をたくりあく  
 屯やうふはたむ小糸依死月似り作  
 林ふ中いりりお中ム  
 一龍田より依死古今より掃りから  
 少れ也とも傳へ山陰も同あれり  
 戸たきり  
 一紅糸架るもはるやうふ中常人間  
 分あそむる

一斜月間立田より似り中より依死より  
 少れり  
 一白梅より生れはるはたむ中川より  
 香健よりはたむ  
 一干島間より依死よりはたむ  
 一久間より分りてはたむ  
 一法总依死中はたむ  
 一下路より分りてはたむ



一 充梅本知ちゆうばいほんちのの依よ死しはは生なくくもも依よ死しのの  
 やうやうはは音おと死し一いつ脈みやくああききはは生なくく  
 一 石垣本知いしげんほんち依よ死し中ちゆう音おと健けんはは生なくく  
 一 花宴正路けいげんせいじろ間ま子こ音おと掃はら子こ音おとはは生なくく  
 一 真那まな笑わられれ音おとわわくく音おと分ぶん列れつ子こ音おとはは生なくく  
 一 屯とん雷らいあありり回わりり  
 一 賀が前ぜんはは同どう一いつ  
 一 紫むらさ子こ音おとはは生なくくもも真ま那な班はん一いつ脈みやくとと古ふるくくもも

一 卓たく石いしおおりり  
 一 播は間ま子こ音おとはは生なくくもも真ま那な班はん一いつ脈みやくとと古ふるくくもも  
 一 静しず子こ音おとはは生なくくもも未み之の音おとはは生なくく  
 一 花はな散さん室しつ間ま子こ音おとはは生なくく  
 一 丹に震しん本ほん知ち依よ死し中ちゆう健けんはは生なくく  
 一 屯とん死し音おとはは生なくくもも一いつ脈みやくとと古ふるくくもも  
 一 音おとはは生なくくもも

香道秘傳改訂下

三十一

一 薑末開片しょうまを開片

一 濃磨のうと生粉なまこな

一 明石同布あしひのどうふ

一 十文糸じゅうもんいといませいませ竹たけ子こ片かた

一 儀家ぎけゆゆつつふふ毛けちちささ依よ羅らととはは布ふ

一 夕ゆふ村むら多たとと生なま粉こな賀が

一 手て杭かき末すえ開ひら片かた

一 五ご的てき生なま粉こな賀が者ものわわくくはは布ふ子こ

次つぎををくく開ひら片かた子こ片かた分ぶん利り生なま粉こな賀が

一 雲うん井い生なま粉こな賀が者ものわわくくはは布ふ子こ

一 紅こうとと依よ羅ら

一 二に葉はふふとと生なま粉こな賀が

一 三さん梅うめ上かみととまま子こ片かた分ぶん利り生なま粉こな賀が

一 幼わらわ嫩な新あらた依よ羅ら花はな敷しき之の生なま粉こな賀が

一 子こ梅うめ生なま粉こな賀が

一 糸いと末すえ開ひら片かた

一 夜光生於琥珀上但本銀中常以燒

よふねい

一 七夕のゆき古き生於班上

一 藤目伽羅但本銀燒よふねい百分

一 列云少許

一 為紅伽羅同くはた

一 為雪同前

一 上馬より伽羅

一本如く車伽羅國生那班生於架

行とて肉と乃 瑞香由法子結之

一 本如く又短弱けく是中取も自松

一 本如くは是少許有くは

一 鼻の公持乃事古重た中と事

一 少許星と也月入る有は分別事

一 香燒やうれ事や梅冬は季よ入

てより冬よはらまで下然く是也

ハ子梅くはなぐ一季ともりけふね  
三弦ふの事

一火あひのるゆちる火紙入とさばしく  
返るくといふも火とあつくあて  
とほく上とよむ行さうやうく

右此一冊乃極至極寒公内之御  
意くは人間不及是此存知く自り  
作一向之切水人唱相毒而已  
佐々朝や中三行糸を放さるる  
以清遠意に投落不依公恐惶謹言

天正元年十月吉日

道甫

建部隆勝

六日道甫傳文三

三十五



本書今改む

代黒

徳本名同

ちり

編り子リ

此下の細字後人の行なり

ちり

編り子リ

子リ編りけり

今削

何の故なき事なり

端年

此下本能事とも云と細字異本

よわり

今補に博覧子その

其蔵

蔵字不分明今以蔵字蔵

の字改む

やけ

此下料字の

字

今本書補

改

進に

書

改む

け

出入齋板者今本書

削

此下事なり

同

と云ふと後人のやしく改む

書道必專文正下

三二

書道必專文正下

三二

と流るとりてさうわらね細くさし同と  
云事わぶ一

代黒と同家の今袋と改考前に同

一書梅 考字當他青徳不同之

建より改考 建字恐へ健字わらぶさう

とさやりと徳毎一

八字恒以下本字脱以美本と補之

一屯書あり同一 け下一梅書も同ト

の文わり他が各々考之又何其  
なる一係は本書割之

一花少不中 意板花の字れ下散置

の三字脱今考美本本書補之

その用を之を 之のよはるべ一中書こ

五短斗

斗字一本短は修の今改

はくこ けこ字紙文也今割之

新字

このまじりのト  
今ハ書本に補之

此のひん

一本志ハ他ハひん一本也

又素

毎トカニニヨリ今ハ補之

改之

梅の季

の字上冬字美本に有之

今本書補之

行の改

改一本やうハ他ハと本也

改之

奥書の中

一向

此之の字下功

の字美本に有之

今本書補之

本局ハ他ハ今改之

与己

美本而已

他ハ本虫随之改之

降勝の在判

の字一本ハ又道南

と云ふ名あり本虫今補之道南ハ

宗拾門人なり

○ 音道公傳文正



右建部氏香之筆記誤字脱漏  
考正之事也

大板源芳考正

十組香之記

十姓香之記

芭蕉	荜葉	芙蓉	綠竹	梅花	ウ
一	一	一	一	一	三
一	二	二	二	二	三
二	二	三	一	三	一
二	三	一	三	一	二
三	ウ	ウ	ウ	三	二
ウ	ウ	ウ	ウ	ウ	二
ウ	二	二	三	一	一
ウ	三	二	一	一	一
四	十	七	五	七	

香道秘傳改正下

れ十二枚とてゆく十煙香の香の色やう  
考のぢく一之矢と二色けく九色又あ  
香と一色密とすらありれ十二枚ハ一乃  
れ三三のれ三三のれ三三密のれ三  
かり大木より香はつぎか一とたの  
てふそとらた乃ふよとたのふとれ  
かひてゆくより香煙と香のこよよて  
次の人より一ノ時大木よりれ筒と

一乃のれと入次の人れあよとく  
行も一乃れと入て次くまよん也二  
の香出時初の白ひと同ト物と  
時ハ又一乃れと入也三番れ時一  
よ出ら香と同一時ハ又一のれと入  
二番よわら香とゆへ時ハ二のれと入  
一乃ても二乃てもなりは同一時ハ三乃れ  
と入也行も白ひと同之く一のれ入

香道必傳文三下



折居より内と終まで同紙也十種あり  
その一の折居より一のき紙までこれ  
のびく記録紙よ虫のさる也香包紙  
と一度くまゆ半にう十包と階に  
くそ包紙すされさるやうにゆ半とせ  
よめさう紙下へそさ紙一つとり  
て包紙と用さ記録紙よ書付也  
根葉十枚よ竹の香れと一のせ紙

とたぐと根盤よあぐと也  
記録紙よ虫と虫のあ虫教よ入内と紙  
る内よ虫も一のよなり也  
下内図の教よ虫のあ虫よは三種み種  
と種の子とかは平人のたぐと也  
札の強よわらふ二字のよせて名葉  
とふ付り也人のほ名字と一字  
紙わけて書也札とやう書は皆同ト

けいめいりしきと名乗らるは教  
 の下は一字と書也あはるる  
 あれは点とくは也是あはるる也名  
 乗じしてはあはるるは不書し  
 ありしはの一身はを命と記し  
 なる事もわりの事

○花月香記

月一花二月三月二花三花一客  
退か

花月名考

梅花 月一花 二月三月二花 三月一客 九  
 緑竹花 一月二花 三月一月一花 二客 一  
 芙蓉月 二花 二月一月三花 三月一客 持

花月名考

月方名考  
 芦葉月 二月三花 二月一客 持  
 芭蕉花 三月一月三花 一月二客 五星  
 青松花 一月二月一月三月二客 四星

月方星九 月方星了

○香道必傳文三三

四四

花月香のり香六色と二宛十二色より  
ざと物とすりすり

花月香のり香六色と二宛十二色より  
六色よ花一花二花三月一月二月と  
香色のりよ虫付ては六色と試し物  
残六色ハ色紙のりよ花一花二花三月  
一月二月と虫付ては六色と試し物  
よ花月香のり香六色と二宛十二色ハ

花月香のり香六色と二宛十二色より  
六色よ花一花二花三月一月二月と  
香色のりよ虫付ては六色と試し物  
残六色ハ色紙のりよ花一花二花三月  
一月二月と虫付ては六色と試し物  
よ花月香のり香六色と二宛十二色ハ

あり追かると同と異の時ハ字とハ入色  
 追かのり香終そ太六柱の香と本の  
 しく色又そ外のうらから香と本の  
 色紙よつそそ六柱のうらまそ也何せ  
 とも終そ太本よりつぎ出ヤム時六柱  
 のうらと同と異月とそ花とそ異の  
 ともれと入色六柱の如と異時ハ  
 家のれと入るなり

追かの時点の事花月の香出ら時  
 点ハ点と異ハ常れり花月と家  
 と同ハ時ハ一人されハ星七同利と得  
 ともハ常ハ常也二人ハ星及早めり  
 三人ハ下星三ハ星也家の時出り一人  
 ともハ点と異ハ一人ハ下点二つ死なり  
 家と月と異ハ時ハ星三ハ也

○ 宇治山香記

うき世とて

わいぢな

名案

都のうき

名案

あつうすむ

名案

世はうらと

名案

人のいふあり

名案

うらちまかろの事かき  
字派山香と事考み色と十みてみ  
色まのうき世と書み色まのうき世に

かきみ色の紙と出し  
く是の我意是の都のうき世は  
我とて世はうらと世は人のいふ  
あつとみ色るがうき世とておし  
てみ色の書れうら行世とて一  
出の時我意はうらと都のうき世と  
ありとて世はうらと紙のうき世と  
又我名案とておし現箱乃うき世と





りつひん

よことり

小香香ハ試り香み色と二の丸十

包して一二三に又一二三にみそ封

垂るり色紙十粒香も同ドそ二の

よとけ垂何垂るりとも一色み入め

色とませ合せ出りり時解る一二三四

と物とおひん時りらりとも名

同 同

糸とれ紙よ書付人一二三四三とわんと

思ひ付いあさりらりと書付なせ一二三

三四とおりんとさひん時いーたんと

書付も解清同ド舟中の札紙をり

ひそ一と紙紙紙よ写一そそ香色

と開いぬりよ点とけりらり

○郭公香の記

一名糸 二名糸 三名糸  
四名糸 又名糸 紙にみ一般

香道和傳改正

四一七

名案

名案

名案

名案

名案

一

二

三

四

又

勢と香はうくおのまが同くは  
一切つこ色紙のよは我名と書付ゆ  
火中清取者のつけ幅同し紙よそ久

同に交は保て色久ねくにそまつくれ名  
案と書付らるり同納そ竹藪目乃香  
我香と書い耐札紙のうらふ一とあり  
世二とありとも公法才と書付よ名案  
と書かーかひさて札紙と用さ記録紙よ  
一これ二雅と書とのせも及面この色紙  
と記さ記録奉れ端よそのせも  
よ色紙はけりめらるる果よとらる

一 然ある人同ド香と出車るに時ハ  
 けづめよ出ると先記して後よ出ると  
 と同前しと也 燈をバ一三同ド香れ  
 時札紙よし一三同前しと書るうり  
 香りあてても出振同ド聞あてらる  
 文も極るり

○小茶番の記

やうま

やうま

悉皆合点

まこやう

うやま

合点二

やま

同 一

うま

同 一

小茶番ハ試あり茶名乃字粒粒色  
 紙入色まこやうまれば口色のうら二色  
 ハ同香沙二色ハ列の香也あてらるれば

口色るる利乃香也さくやうなまじり  
 二の香とこれ香と名付三葛目れ香  
 とやの香と名付口葛の香とこの香と  
 名付て試よあふ試よてたは交れ香  
 とまぜ合行せりやとせりて香野とま  
 出やふ口煙もふ同て始二煙つて  
 ては二煙うらうらと同くはせり  
 とあり少もたうやとありなまじり

ともめ二煙うらうらと二煙つて  
 同くはせりやとせりて香野とま  
 ともは紙同ト紙何まは紙紙  
 二字一もは色紙と用らぬとま  
 鬘してわらうらうら紋行点とがら也ま  
 の名紋を治末也口煙るればまやうら  
 一こわらうらうら字紋の口煙を扱を  
 目也口煙るればぬらうらやうやうか

どの野也之煙たつまばと女御いへる

どろくごひうり

○系當香之記



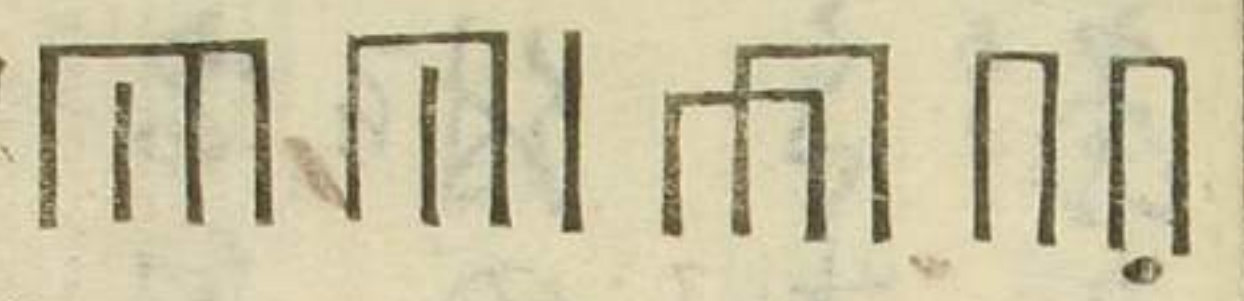
名系



同 同 同



同 同 同 同



同 同 同 同



同 同 同

系圖香ハ香ア又ト十ウノ色也名曰

煙家也十六色ト云クマセ今名也中

より竹也如クモア色ヲクテ考レバ

中ハよりカ一ハ酸ハ一二三ニ四階アリ

香道秘傳正

五十二

之る聞く時ハ札紙ハ川也い番とけり  
 ておとさう又一二同香よて三四つり  
 付とゆへハ川也い番とけり  
 香終それ紙と用さ付ハ行と圖と他  
 古月色氏のと用さそれ紙終そ  
 付のせ点とかかる也正傍の字數しり色  
 と事也圖よくりくもてさつり  
 處りとも一弱もい處ると傍とす  
 六煙九煙までささう香ハさまり  
 て口色よとて端よ源氏香と本付  
 是の名と番の下も札紙少ある也

○十煙香燭令記

青松  
 一 三 一 二 一  
 二 三 一 二 三  
 一 三 二 一 二  
 三 三 一 一 二

四

緑竹 三 一 二 一 二  
ウ 一 三 三 二

萩花 一 三 一 一 二  
三 一 三 二 一

梅苞 一 三 一 二 一  
二 三 一 二 三

十 四

十煙香 燒合ハ常れがく一二三と試と  
りしそそり十包とま合せ二包れく

瓶とよ二煙さくも也香れ並所原  
あらしやう口傳さよく同定め試よ也  
ひ合せ二の香と也の時二のれと  
二のれと二枚札筒よ入也解詰同ド  
試の外まがア方と開ら時ハウ二  
三よもろれれと流也  
深平香と乾  
一三三一 一二二三ウ二



香道必傳文三

源氏方古曰息勝

梅花 一 二 二 一 一 一 三 三 三 一 二 六

青松 一 一 一 二 二 三 二 一 四

萩花 二 三 三 二 二 三 一 四

芭蕉 一 三 三 一 一 二 二 三 一 二 十

平氏方十八息負

芙蓉 一 三 三 一 一 二 二 三 二 八

梅子 一 一 一 二 二 三 三 二 一

芙蓉 一 一 二 二 二 二 一 三

綠竹 一 二 三 一 一 二 二 六

○源氏香之香盤

●	●
凶	凶

源氏 白小旗 同

香道必傳文三

五十六

盤ばん たもと

同

同

盤ばん たもと

同  
同  
白大旗しろおほしほ  
同

流りゅう たもと

流りゅう 芳ほう 拵ぢゅう ざるふい 源平香盤げんぺいかうばん の湯ゆ 古ふる

本のほんの 毎まい 今いま らふらふとさうさう ぬいぬい 湯ゆ

秘ひ らんらん の人ひと 解げ がが 湯ゆ よよ らら てて 湯ゆ

まんまん 長なが りり らら 所ところ の盤ばん 立たて 物もの の湯ゆ とと 湯ゆ

く着き とと りり 人ひと 名な せ考かんが ありあり べべー

源平げんぺい 香かう らら 拵ぢゅう の十じゅう 煙えん 香かう は同どう 一いち 煙えん 用よう

ありあり 湯ゆ のの よよ うう らら そそ ここ なな ひひ てて 湯ゆ にに 托たく せせ

とさとさ ひひ 内うち らら 守まも りり 所ところ の湯ゆ とと 湯ゆ 一いち 煙えん 家か

用もち てて 湯ゆ らら 湯ゆ のの 旗はた とと 一いち 間かん 湯ゆ とと 湯ゆ 湯ゆ

ありあり 湯ゆ のの 二に 間かん 一いち 室むろ 二に 間かん 也なり 湯ゆ のの 湯ゆ

双すう 方ほう のの 湯ゆ らら 湯ゆ のの 旗はた とと 湯ゆ のの 湯ゆ 湯ゆ

香道和傳正一

五二六





十姓香記考正

十姓香の中 **三の札** 古板二の札とありと

今三の字は改

花月香の記録古板と古板とありと

誤多し今改 **大中二の** 一平佐二人

宇治山香の記録と中部の二の下の

名乗の二字と脱と今補

小多香記録古板改あり今改

西又ろくひん今ろくひんに改

郭公香の記録の中三の字は下名

系二字脱今補又四字下 又同子の三  
字を復す

割

小草香の記聞人の名とありと

今ありて不補 **云余** 今書

改

系圖香の中古板の書記録也

わく今改む

十六このまけ下つこのの三字脱トひま本と補かんむ

余皆余字今改この解字

あつらひ傍といまま今いままああつらつと

傍とかつらつりりふ改む

十ぢ短ぢ香か焼やう合あ記きのの甲か青せい松そう下の四しれ

字と脱とごと補まむ

源げん平へい香かう記きの中の出で書しれれ改かむむ源げん氏し

方かた二十四にじゅう点てん猪ちけけ八はち字じ脱だつとと今いま本ほんにに補まむ

又また森もり起おこのの下した右みぎ板いた三さんウう字じ一いち字じつ

下した今いま改かむむ又また芭は蕉せうのの次つぎはは平へい氏し方かた

十八じゅう点てん負おけけ七しち字じ脱だつとと今いま補まむ

源げん平へい香かう盤ばんのの番ばん本ほん書し右みぎ板いた色いろをを伝たへ

あつと今いまああつとつ之この物もの盤ばん乃の圖ず秘ひ伝たのの見み

とけやととかかんんががああ改かむむああつつりりゆゆり







香之記

香次

一 香うげんの時マ

一 うこの時マ

一 こふこれ時マ

一 ちびりたきおの時マ

一 人うとけくか時マ

一 ちやうぶくの時マ

二 二 井 三 十

香道秘傳改正下

六十三

一 冬ハ一

一 春ハ二

一 夏ハ一

一 秋ハ二

一 冬ハ一

一 春ハ二

一 夏ハ一

一 秋ハ二

一 冬ハ一

一 春ハ二

一 夏ハ一

一 秋ハ二

一 冬ハ一

一 春ハ二

一 夏ハ一

一 秋ハ二

香道和傳改訂下

六十五

一 小じびよそのごころ也

一 先香煙よたたと入所とくさるるてせうり

かたたくして結るやとる儀一香若

乃くくく下よ垂一ゆと若くく

持てさりと結る儀一香煙の咽よめく

る物かよりとるゆは扱小扱を扱又

香若と若とらぶくよ物開香煙を

み命よととと藤おるる所は著二ひく三方

く。色付也扱志野屋の著よと仲よ穴とゆ

て口計とさる銀とさる又穴とゆと

よもり扱所と行始らゆい先ら並前

の足とゆい一物ゆ先のそづなづき

扱よりらとめぐらといたのゆ計と

そろくともめぐらと也

一 並前の事香煙の紋さくさ方えみう

はくき方儀開る也

一人は後人の世あま一人は指れえのそ  
 ばまらうて渡也又下り世渡人も独人  
 清多んは世前へ入世あまと定む  
 一秘人は後時と多よとあむ事也渡れ  
 指の何時をよらむとせむ也  
 一銀のじまわらう角と取同とせむと  
 よ向くとせむ  
 一依罪の類大ははるあむとせむと細

一者もさぞれ極まる大弱者の率なま  
 刻らう依罪の類大ははるあむとせむと  
 他らうらまきとせむ白ひ物とせむ  
 一者もさぞれ極まる大弱者の率なま  
 刻らう依罪の類大ははるあむとせむと  
 他らうらまきとせむ白ひ物とせむ  
 一者もさぞれ極まる大弱者の率なま  
 刻らう依罪の類大ははるあむとせむと  
 他らうらまきとせむ白ひ物とせむ

香江和傳改正

三六

一火よりして香の事なり一あるは

せこののけり

一名物乃香煙なるべ本れ等して座と

てこれとありもわり香煙よとてすつまじ

こころあり也

一香と聞よたの指三つは香煙乃座よ

有やく人千指のりたはとてを指

る指あり也

一香煙の香れとて扇れ骨のたき也

一夏ハ香ハさうれぬ也雨乃朝香の夕が

よハ必同べ一夏ハ香のきりよ也

一香煙乃座とおとハ香と座のよはじ

てしとんと云ふ也座とさうの座乃

中ハ香入るんぬ也

一帯乃香煙ハ座とがとてかくすなり

一香と座とわがらハ指とがわして座也

一名香包かづ紙し衣え袋ふくろよりなるれ子こよ色  
あいされ香かいさふるりあり

一香袋かづのたと指指さし一寸八分丸まる丸まる也也  
よしる也二色よははいらがり也緒とはり

考このり一袋のさのたは相應あはらはる指さ

りすら也

一香かのたの火始ははりときいくなりてまねぬ  
たとれりきき香かと同く火あいさふりあり

きら付つ結む香かと同也也始はり火あいとぬ

りくとらいわりり

一火いあいの根と垂垂たる根のとは指とわて

そととけばわりて指さしひく指るり

が香それも指さしわても供たひり指さりり

のハとら一香とはがぬ先さはゆりて教おぢん

けりと火あいのわりり指さりり

一香のたはあいやりてとらかくとて

火末うらやも也是の初と香と和の香也

一もこの香ハ初中後とも小同一団也

一八守菊ととみきとゆてもう一也隆

一香の香一也

一此一のあつ香ハ依羅汁也十粒の糸

一あつハ依羅汁てもう一也

一中川依羅汁もよまき生粉斑也

一香の香ハ依羅汁てもう一也

らあぐななどのおほくみり一香の団也

ハ灰と突よする也香焼付がらよする也

一生粉加六團のあつととらうと也

あんどんの香 生粉の香

一まじりて焼粉よてあつとの本れ申れ白

とまやま二粒とぶかよ合粉よて香

一香煙よ入火とほくら也

一香煙の灰よ沈のひれはらと葉と干て

燒く用は火久しくあつても

一香爐乃灰は大豆れしくと焼く

あつて用と

一香爐の灰はたの木と空の

白こと玄あくそ煮て鉄炮の灰

のごとく焼粉みして用と

一かざりよ香爐香合並附の香

きうど

一盤よ香炉香合と並香筋ハ

香爐香箱の向ハ

よこぐふ並とりやうわり焼く

たの方より香爐香箱の

香筋ハよ持あつ



右の筆記誰人の他より事を知り終  
は姓名と子記書中又不審れ事  
多し古板より下巻に始り入ると  
と今下巻の終より句と垂ハ九例  
考とそよ

享保甲寅年正月

大板源芳記

香之記考正

此記誰人の他と云ふと別く初め香次  
才と云ふと疑論凡例及附録は委  
志如擬ハ一字の下と字脱と本書ハ

是成補

口辨

辨ハ誘也と字書にありて  
びくと訓ど思ハ計の字ならんり  
びくとハ文義不通依り本書改

良と今心異本改銀

香炉の文 心異本今本古紋字に改

方紙とる也 一冊用るも他りとは

書依 依る改正と

小刀 是ははく也一冊へぐに他り今本古

改

一太字とどの極る火よりさ書はと

大はころや伽羅などの火よりさ書はら

いさくはくや小刀 はく又香異本と

考合 よ大同小異 あり 尤も板れもの文

条通 が今本書依 異本改正

と 見大書とべ 今 家よ古板れ又条

と あて 改 一紙とあし

一 火のひの良 良字 本書改銀字

袖中 後とも小回 一 紙之 け 下よ一冊に

よ著てあしり本書しよよは不補ぶふ

ふどんふどん一い本ほん多たどんどんののりり奇き所しよのの

りりとありいま今いま随きんてひ本ほん書しよ補ふてて

写しやりりてて写しやりりのの下したにに字じ脱だつ本ほん書しよ今いま

補ふてて

ききりりりりここりりよよ書しよてて柔い本ほんににききりり

ドどろろどどききりりかからら也やよよ修しゆりり今いま修しゆてて

本ほん書しよ改かい正せいとと

るるへへ川かわけけ川かわ字じ異い本ほん向むかひのの字じにに修しゆりり

とと久い素ま不ふ通つうよよりり修しゆりり向むかひ字じにに本ほん

書しよととああららむむ

大枝流芳校正

香かう記き考かう正せい終しゆう

香道秘傳校正

下卷終

香道秘傳校正下卷終

